

# 住生活に関する意識調査の結果概要 (国土交通行政インターネットモニターアンケート)

---

- 調査対象者 : 2014年度国土交通行政インターネットモニター  
(全国在住の20歳以上の男女1098名)
- 調査期間 : 2015年2月24日(火)～2015年3月10日(火)
- 有効回収数 : 923名(回収率:84%)  
男性500名  
(20代:26名、30代:67名、40代:145名、50代:102名、60代:111名、70代以上:49名)  
女性423名  
(20代:27名、30代:127名、40代:128名、50代:89名、60代:42名、70代以上:10名)

## 1. 回答者の属性・住まい方

回答者の属性	5
世帯主の通勤・通学時間	9
住宅の種類と広さ(世帯主の年齢別)	10
住宅の種類と広さ(大都市圏・地方圏別)	11
現在住んでいる住宅の築年数と居住年数	12
現在住んでいる住宅と親世帯との距離	13
現在住んでいる住宅のリフォーム状況とリフォーム箇所	14
これまでの住み替え回数	15
これまで住んだ住宅の種類と住み替え理由	16

## 2. 現在の住まいに対する満足度

現在住んでいる住宅からの住み替え意向(性別年齢別)	18
現在住んでいる住宅から住み替えしたい理由(性別年齢別)	19
現在住んでいる住宅からの住み替え意向と住み替えしたい理由	20
今後住むとしたら、どんな住宅に住みたいか	21
現在住んでいる住宅に対する満足度	22
現在住んでいる住宅の周辺環境に対する満足度	27

## 3. 住まいに関するニーズ

あなたにとってのお住まいとは	29
豊かな住生活の実現のために、住宅に関して重視すること	30
現在住んでいる住宅の今後の居住意向と定期的な設備・構造の点検状況	31
現在住んでいる住宅に対するDIYリフォーム意向	32
空き家の所有状況と予定する活用方法	33

## 4. 近隣住民や地域との交流・つながりに関するニーズ

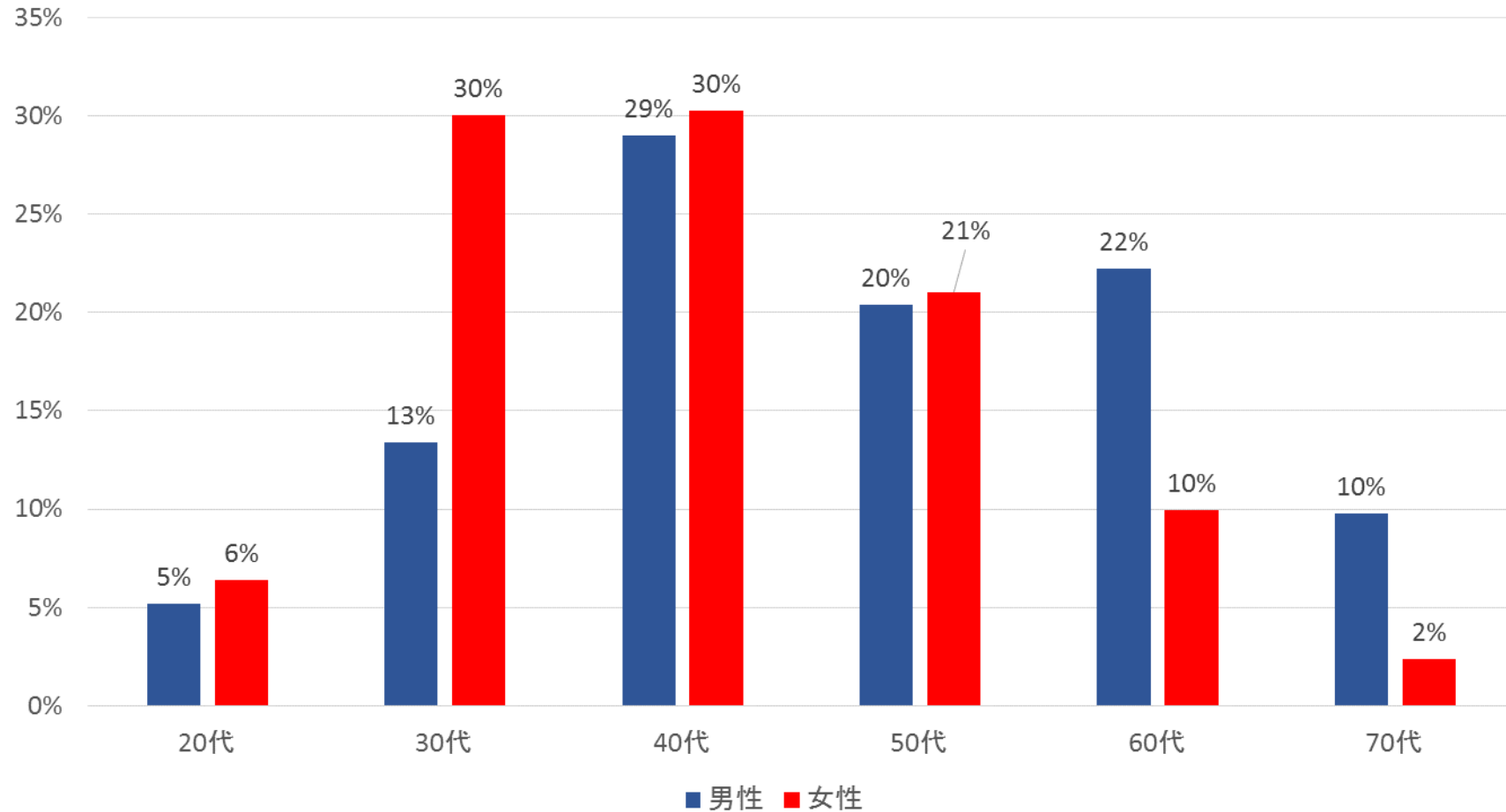
近隣住民や地域との交流・つながりを持つために効果的と考える活動と実際の活動状況	35
近隣住民や地域との交流・つながりを持つ活動への参加状況	36
近隣住民や地域との交流・つながりについての考えと活動への参加状況(住宅の種類別)	37
近隣住民や地域との交流・つながりについての考えと活動への参加状況(性別年齢別)	38
近隣住民や地域との交流・つながりを持つ活動に参加する理由	39
近隣住民や地域との交流・つながりを持つ活動の実施主体	40

## 5. 高齢期の住まい方・暮らし方に関するニーズ

前期高齢者・後期高齢者になったときに住みたい住宅と理想の住まい方	42
高齢期を迎えたときの住み替え意向	43
介護が必要になった時に過ごしたい場所	44

# 1. 回答者の属性・住まい方

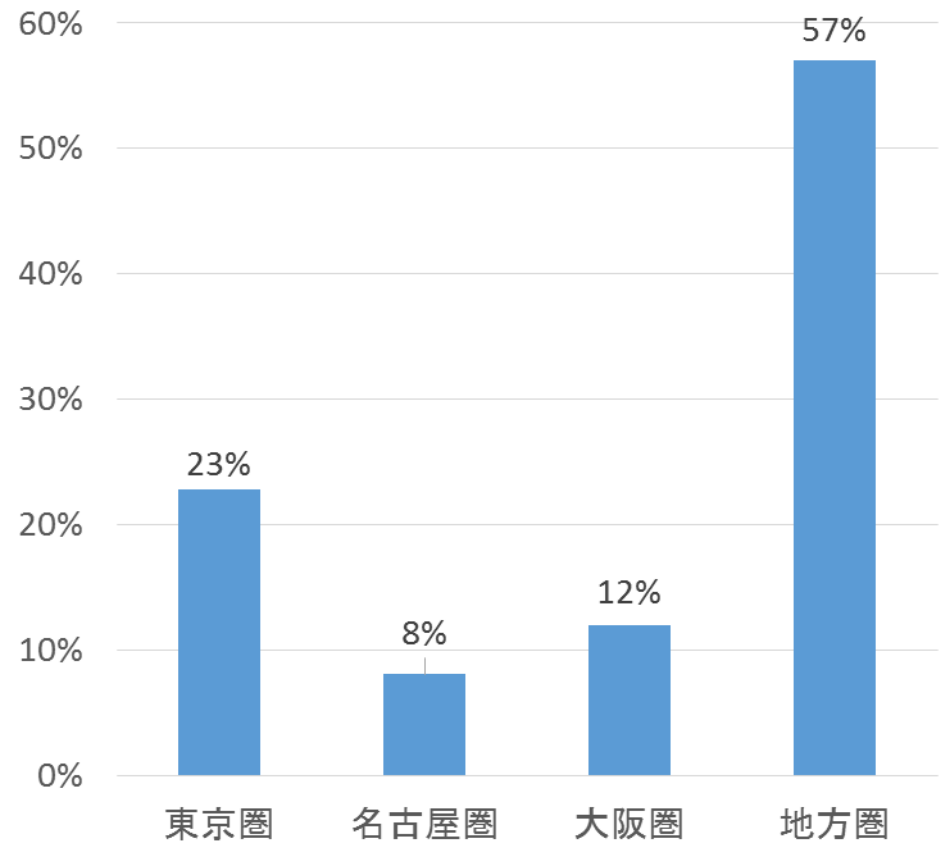
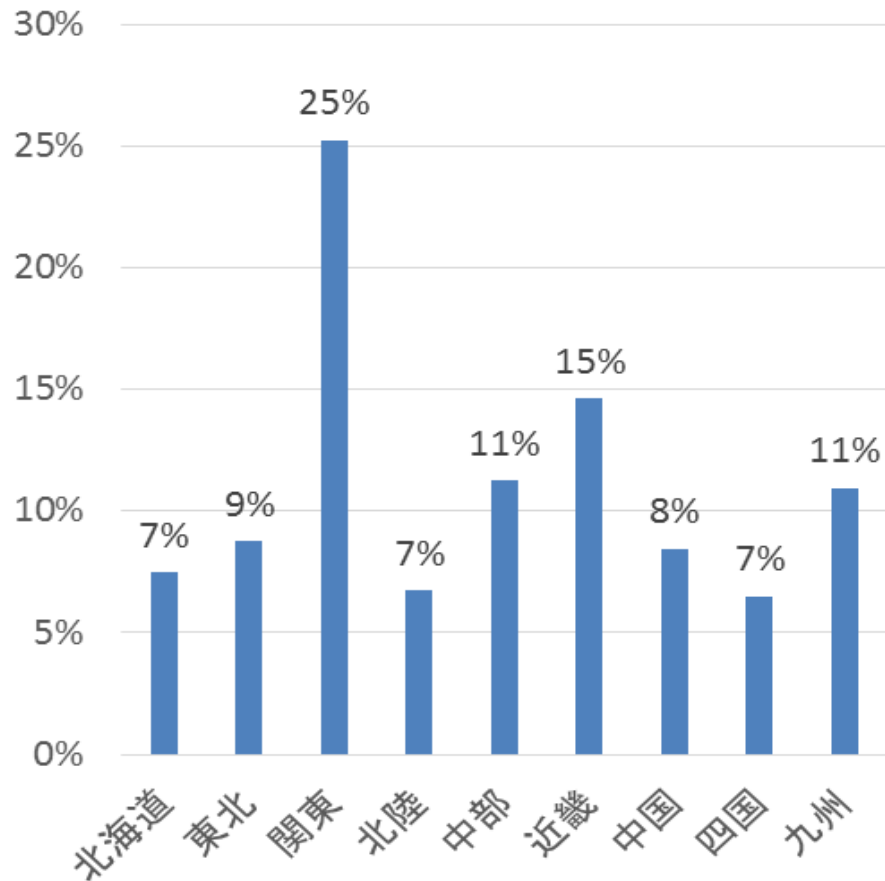
## 性別年齢別



# 回答者の属性 (2)

## 地方別

## 大都市圏(東京圏・名古屋圏・大阪圏)・地方圏別



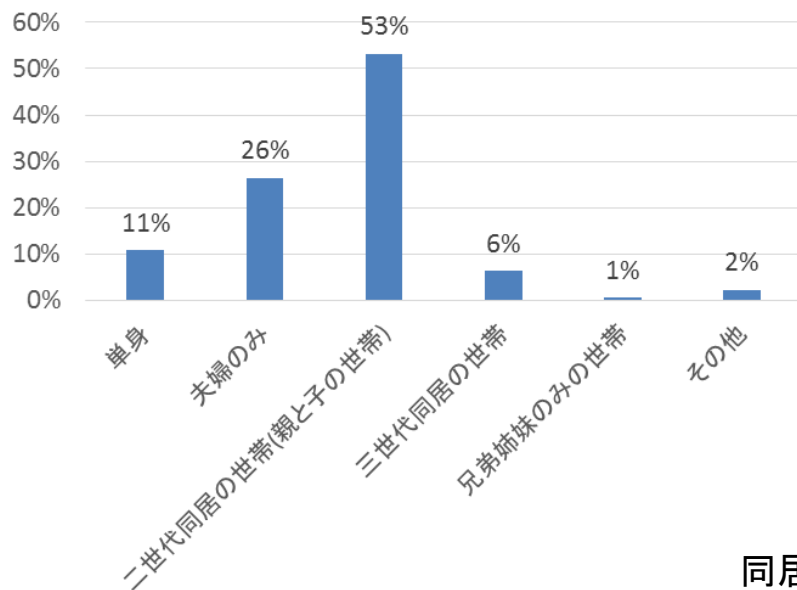
注: 東京圏は茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、名古屋圏は愛知県、岐阜県、三重県、大阪圏は京都府、大阪府、兵庫県、奈良県が対象。

地方圏はそれ以外を指す。なお、世帯主が、通勤・通学していない場合は除いている。

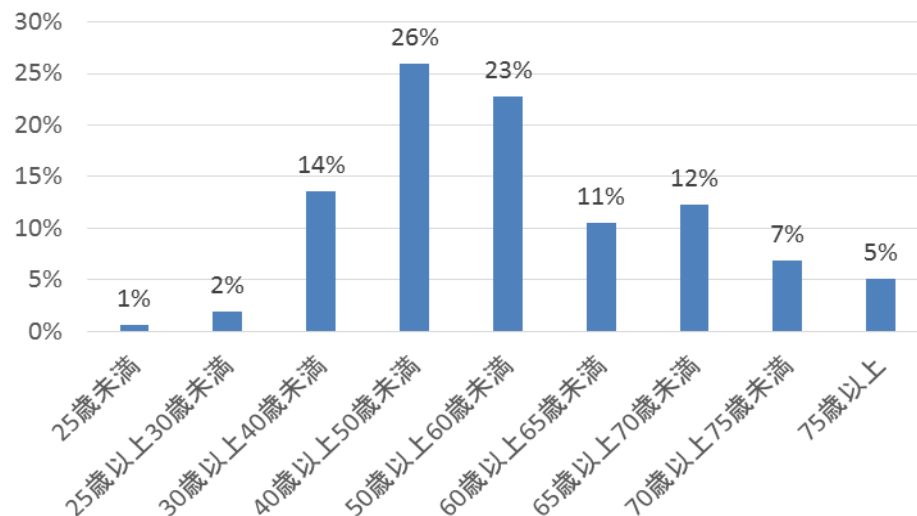
出典: 国土交通行政モニターアンケートより住宅局が作成

# 回答者の属性 (3)

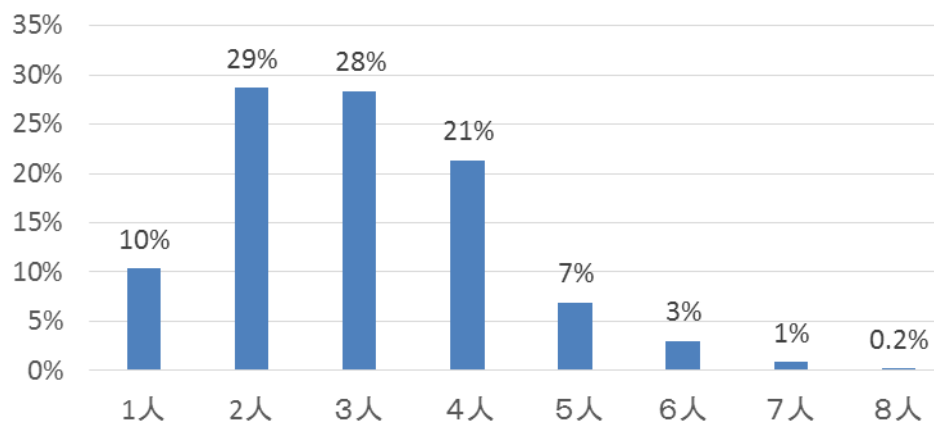
## 世帯構成



## 世帯主の年齢

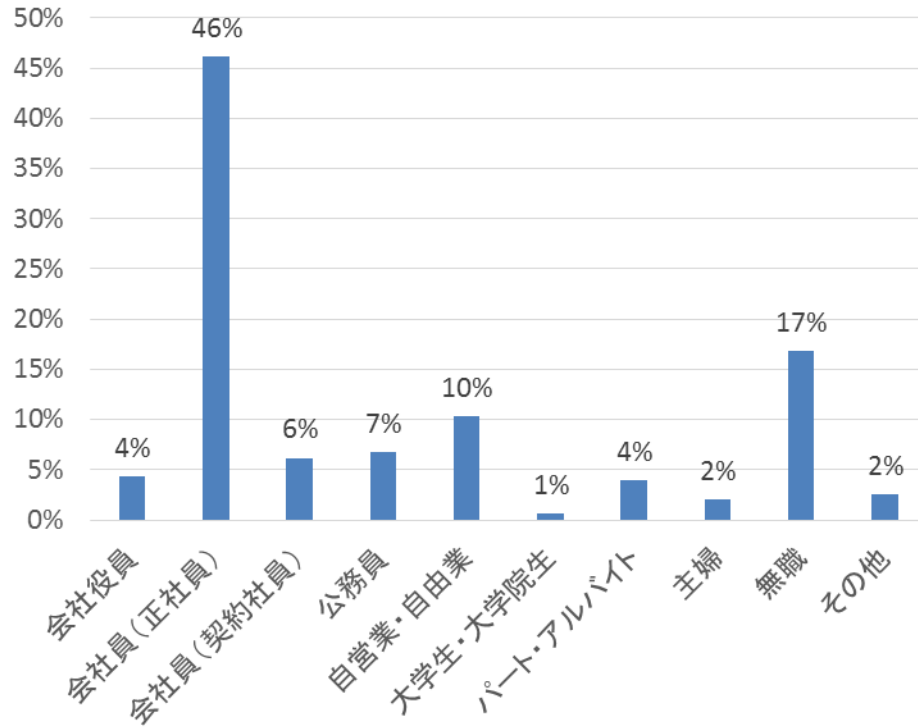


## 同居している世帯人員数

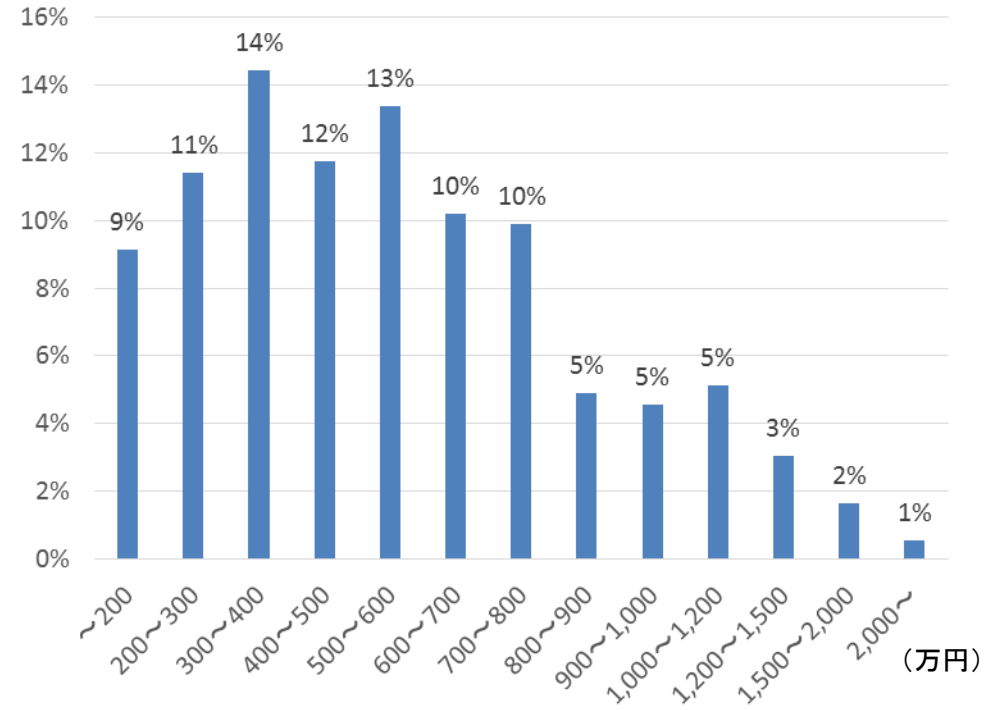


# 回答者の属性 (4)

## 世帯主の職業



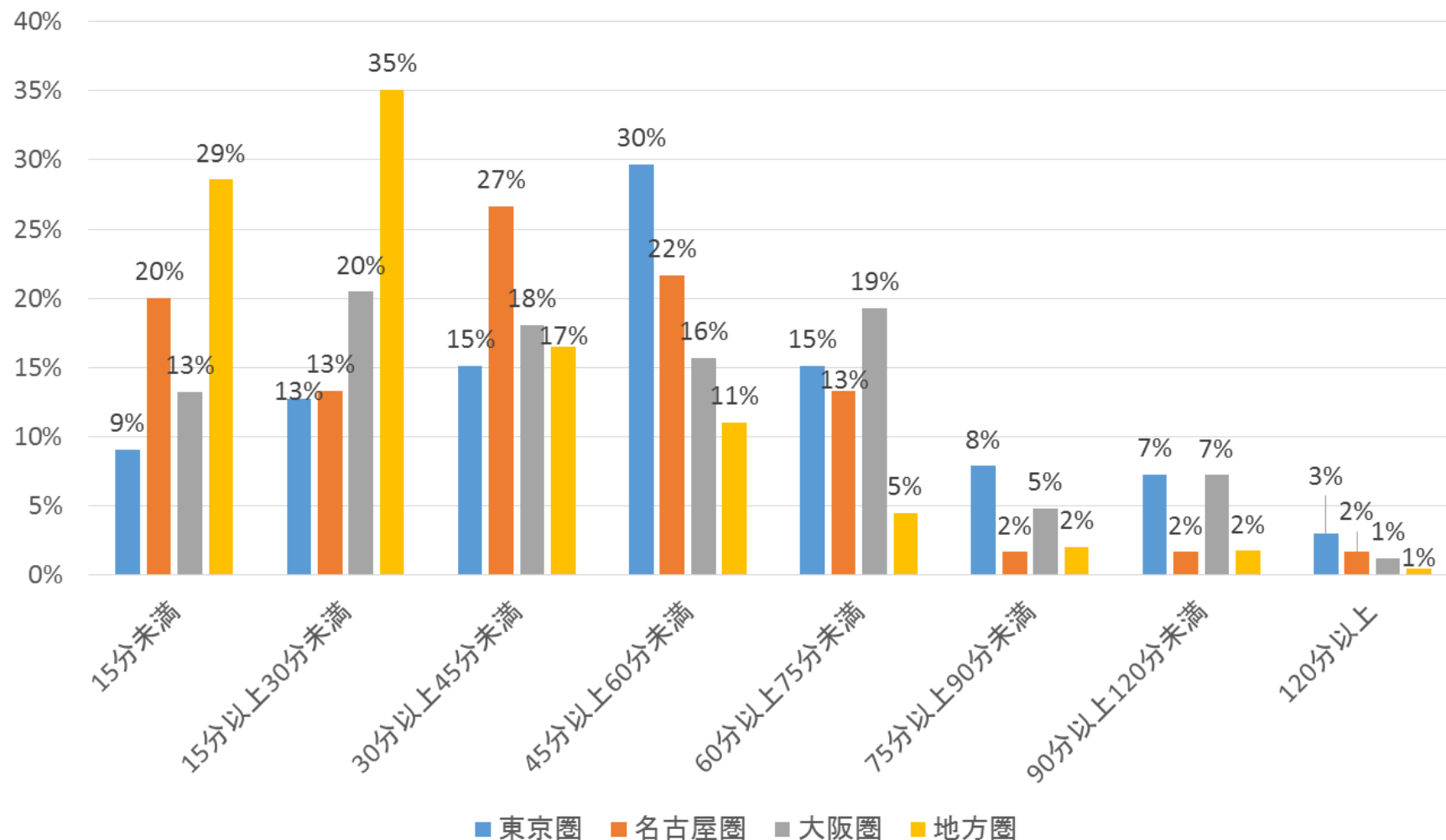
## 世帯の年間総収入





# 世帯主の通勤・通学時間

○地方圏に比べると、東京圏、名古屋圏、大阪圏では通勤・通学に時間をかけている割合が高い。  
 ○東京圏、名古屋圏、大阪圏で比較すると、東京圏が最も通勤・通学に時間をかけている割合が高い。



注：東京圏は茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、名古屋圏は愛知県、岐阜県、三重県、大阪圏は京都府、大阪府、兵庫県、奈良県が対象。

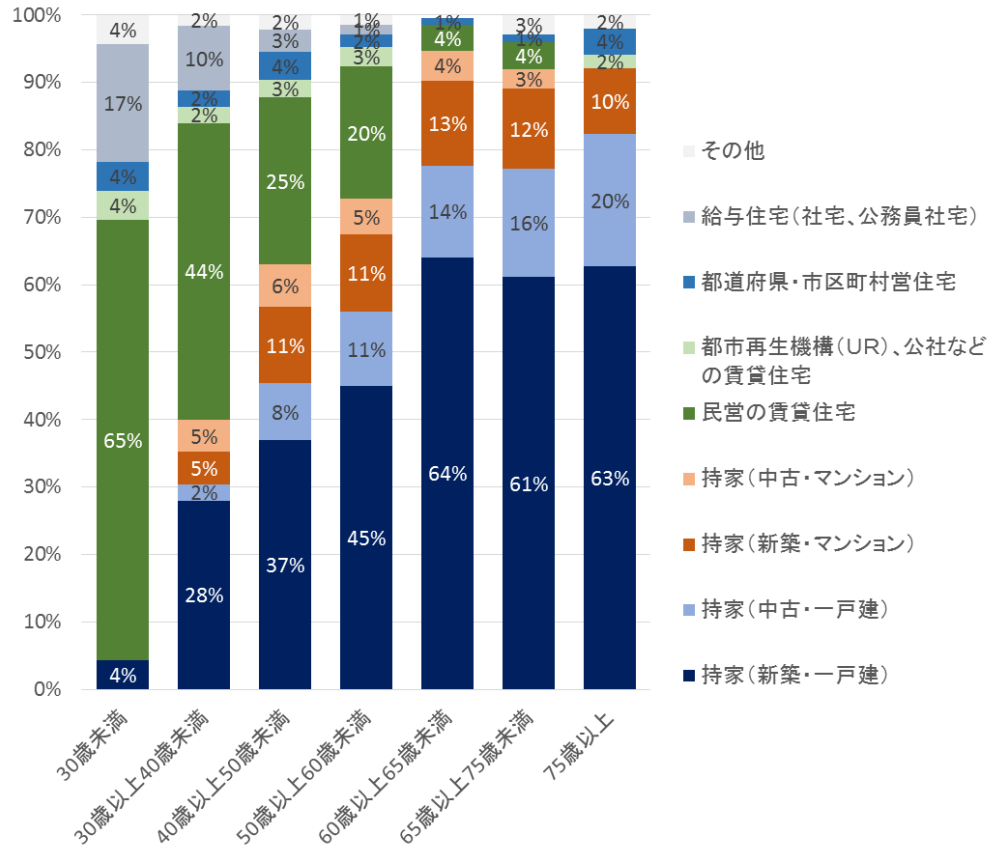
地方圏はそれ以外を指す。なお、世帯主が、通勤・通学していない場合は除いている。

出典：国土交通行政モニターアンケートより住宅局が作成

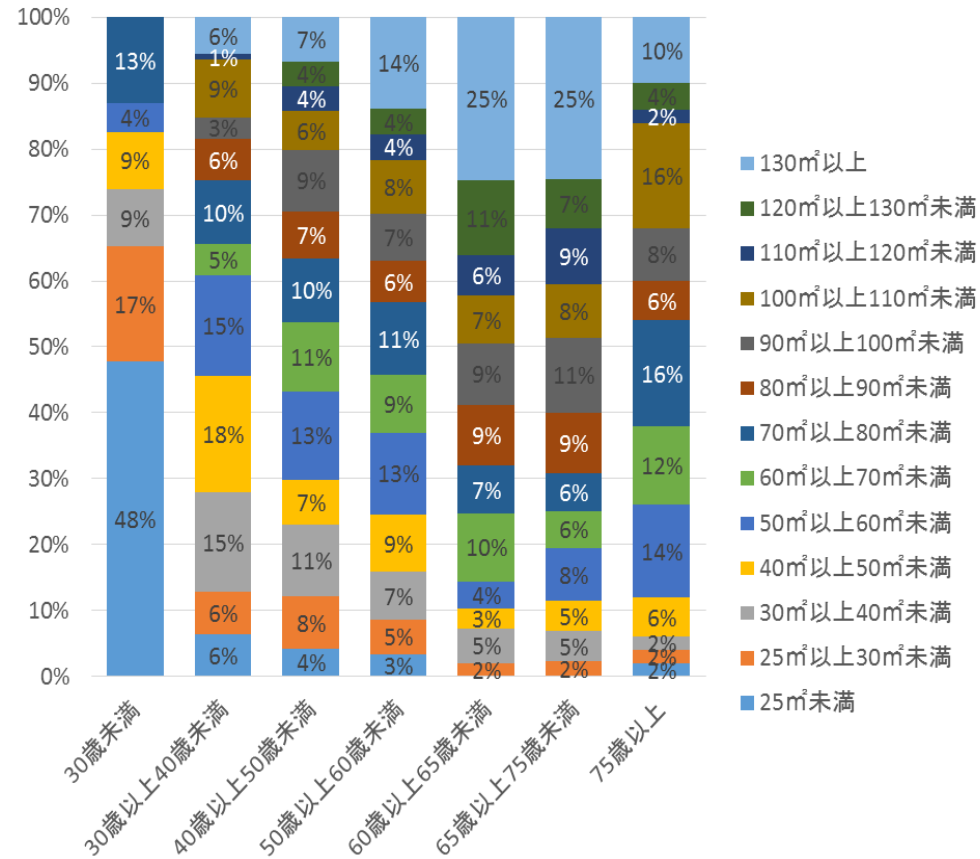
# 住宅の種類と広さ(世帯主の年齢別)

○世帯主の年齢が高くなるほど、民営の賃貸住宅より持家に住む割合が高くなり、住宅が広くなる傾向。

## 住宅の種類



## 住宅の広さ

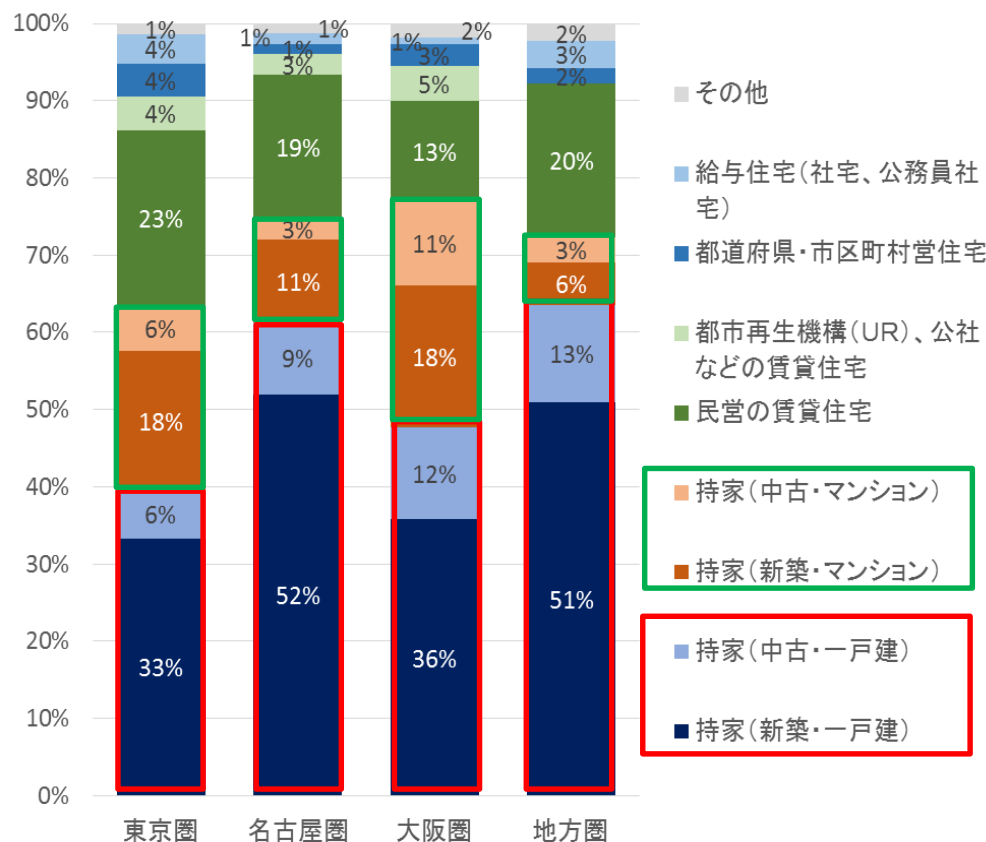


注: 男性が30歳未満:26名、30歳以上40歳未満:67名、40歳以上50歳未満:145名、50歳以上60歳未満:102名、60歳以上65歳未満:55名、65歳以上75歳未満:89名、75歳以上:16名、女性が30歳未満:27名、30歳以上40歳未満:127名、40歳以上50歳未満:128名、50歳以上60歳未満:89名、60歳以上65歳未満:25名、65歳以上75歳未満:24名、75歳以上:3名  
 出典:国土交通行政モニターアンケートより住宅局が作成

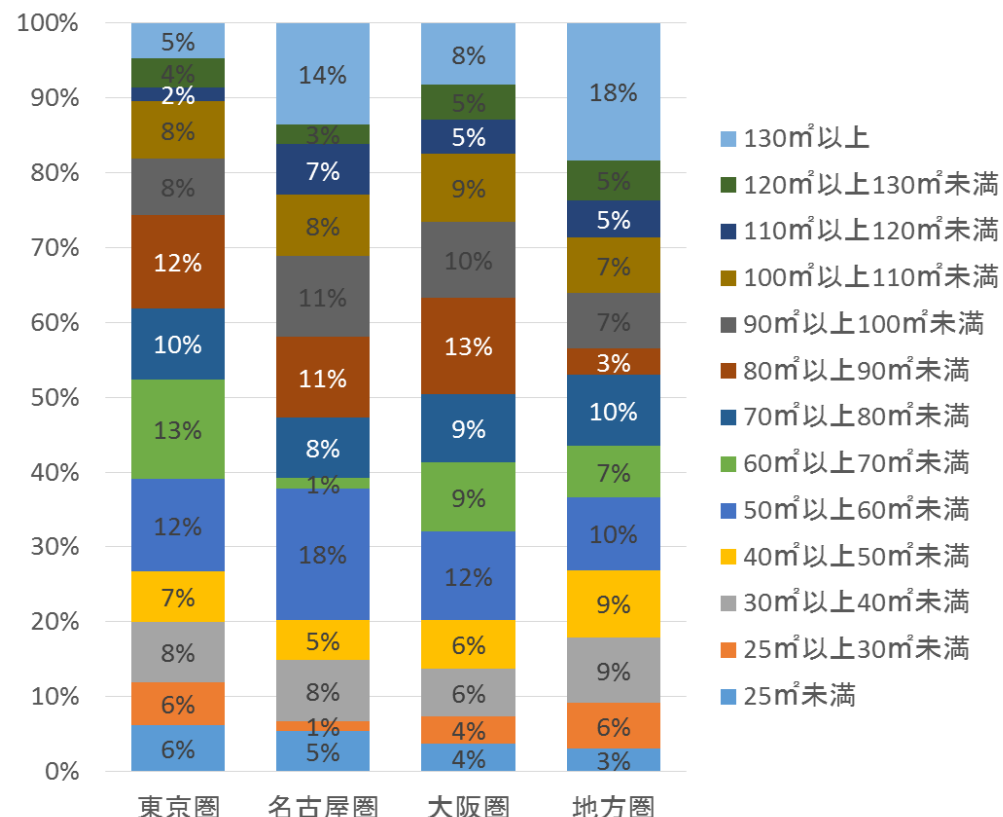
# 住宅の種類と広さ(大都市圏・地方圏別)

- 住んでいる住宅について、東京圏は持家率が小さいが、他の地域においては持家率はほぼ同程度。
- 持家について、東京圏、大阪圏ではマンションが多く、名古屋圏、地方圏では一戸建が多い。
- 住宅の広さについて、東京圏では、名古屋圏、大阪圏、地方圏に比べると狭い住宅が多い。

## 住宅の種類



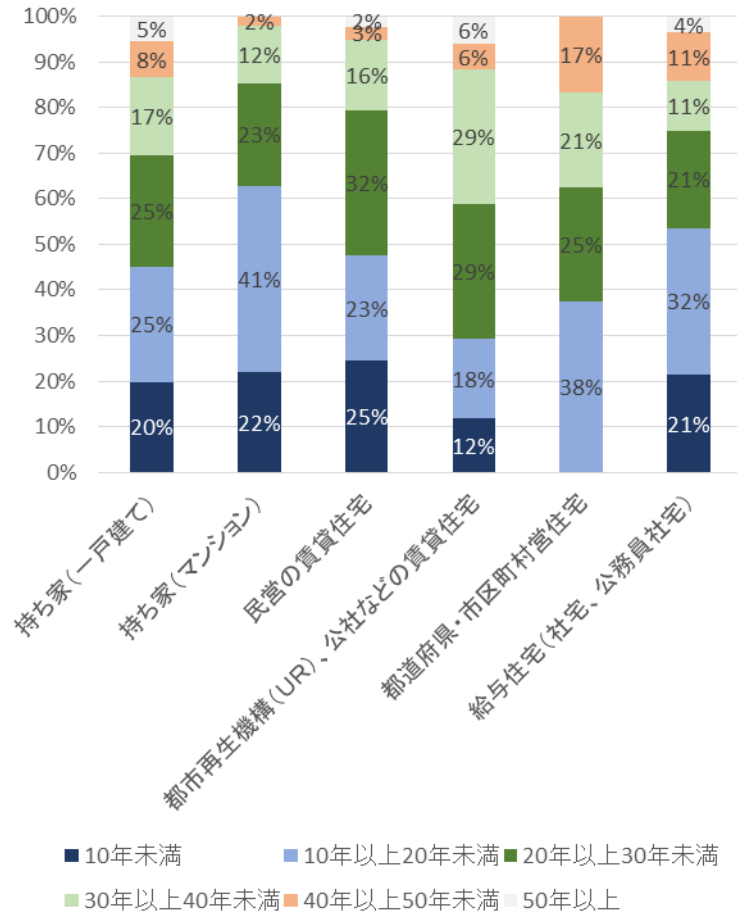
## 住宅の広さ



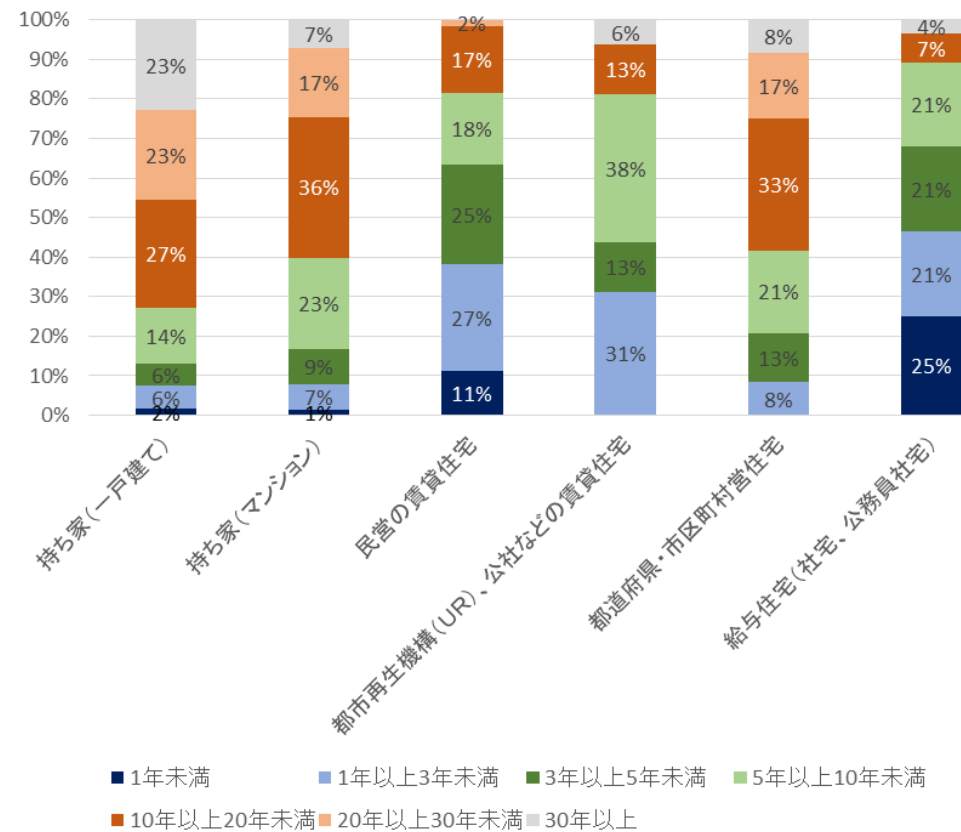
# 現在住んでいる住宅の築年数と居住年数

○現在住んでいる住宅の築年数は、10年～30年が半数程度を占めている。  
 ○現在住んでいる住宅の居住年数は、持家の方が他の種類の住宅より長く住んでいる。

## 現在住んでいる住宅の築年数



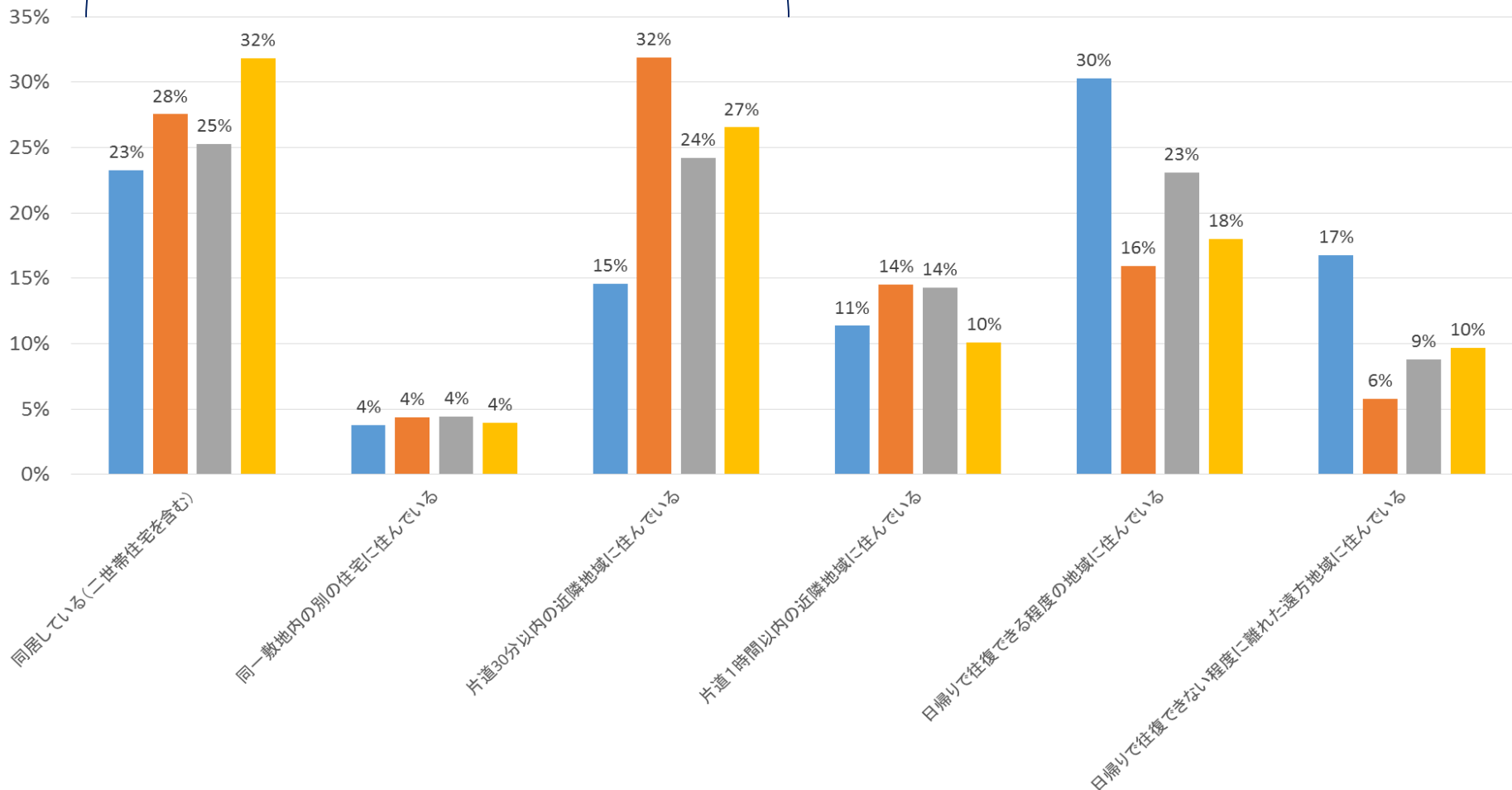
## 現在住んでいる住宅の居住年数



# 現在住んでいる住宅と親世帯との距離

○親世帯と同居している、同一敷地内の別の住宅に住んでいる又は片道30分以内の近隣地域に住んでいる割合は東京圏が42%で、他の地域より低くなっている。

東京圏:42%、名古屋圏:64%、大阪圏:54%、地方圏:62%



■ 東京圏 ■ 名古屋圏 ■ 大阪圏 ■ 地方圏

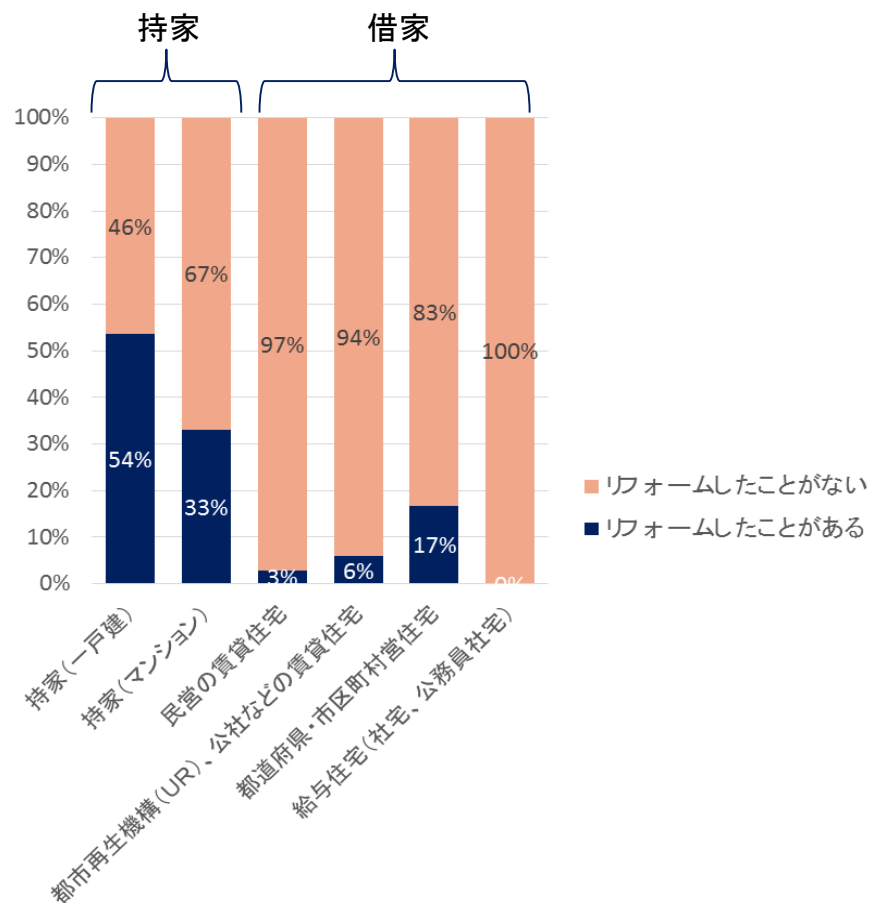
注:親世帯が亡くなっている場合等は除いている  
 出典:国土交通行政モニターアンケートより住宅局が作成

# 現在住んでいる住宅のリフォーム状況とリフォーム箇所

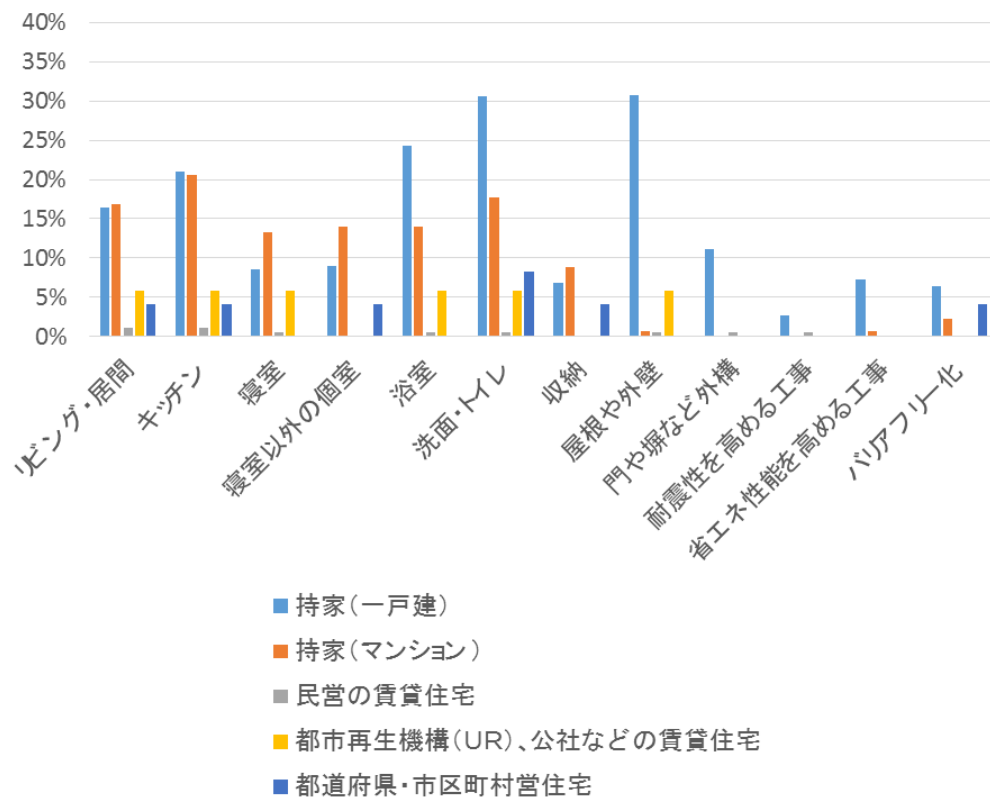
○持家の場合は、リフォームをしたことがある人は、一戸建で約50%、マンションで約30%。一方、借家の場合は、持家に比べてリフォームをしたことがある人は少なく、民営の賃貸住宅や給与住宅などは数%にとどまる。

○リフォーム箇所は、リビング・居間、キッチン、浴室、洗面・トイレのリフォームが多く、耐震性や省エネ性能を高めるリフォームやバリアフリー化といった工事は少ない。

## 現在住んでいる住宅のリフォーム状況

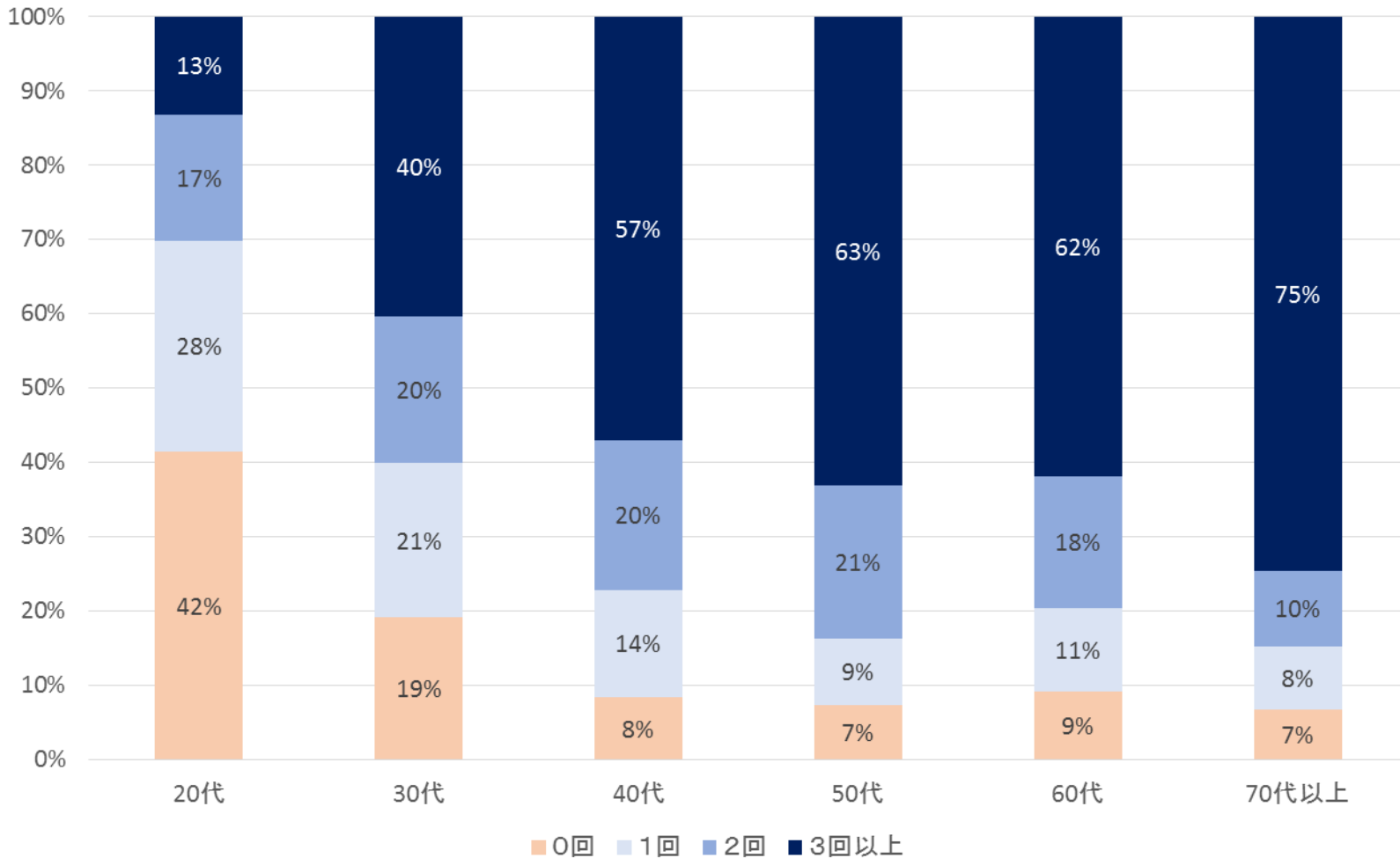


## 現在住んでいる住宅のリフォーム箇所



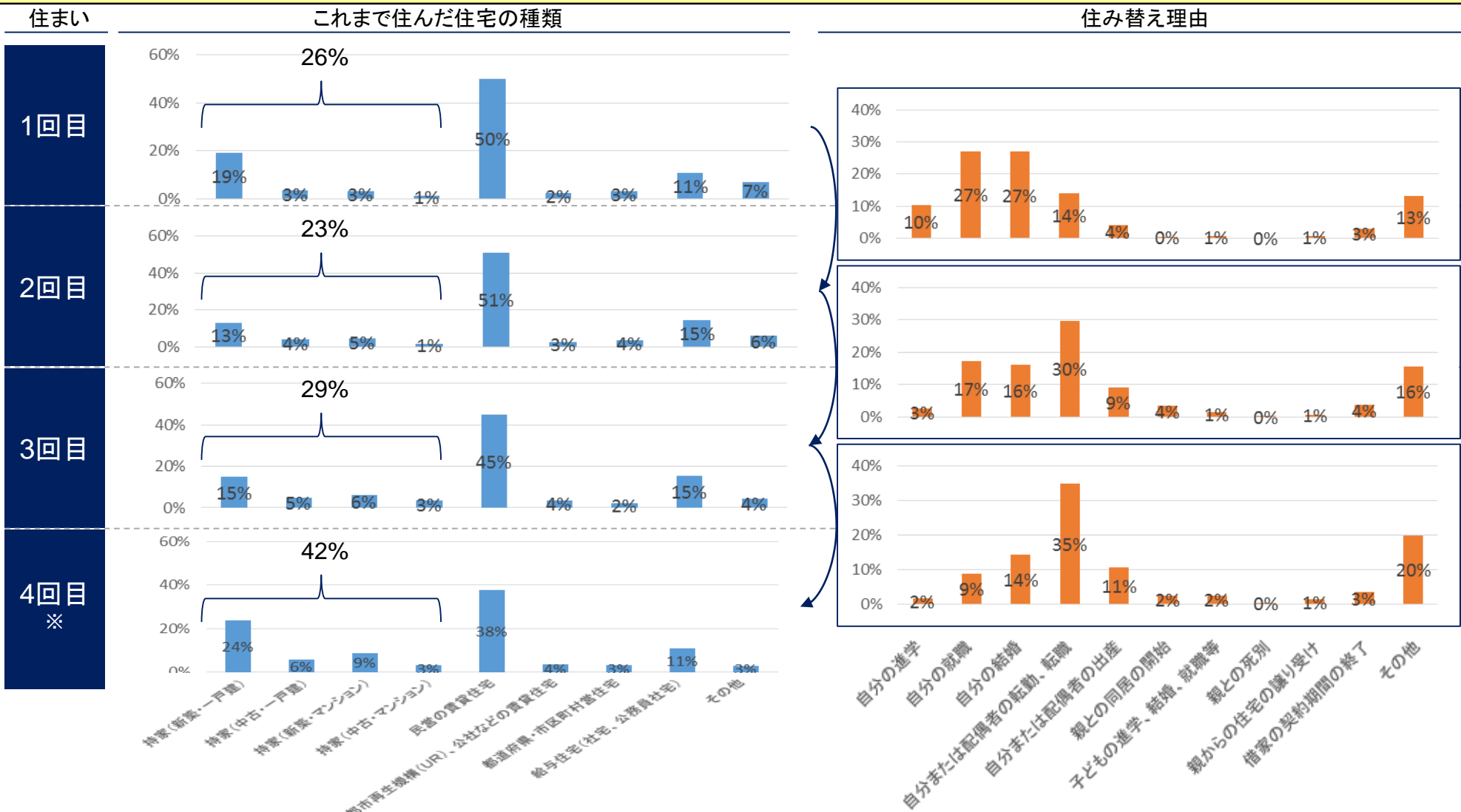
## これまでの住み替え回数(20歳以降から現在に至るまで)

- 20代の約60%、30代の約80%、40代以降の約90%が住み替え経験がある。
- 特に、40代以降は半数以上が3回以上の住み替え経験がある。



# これまで住んだ住宅の種類と住み替え理由 (20歳以降から現在に至るまでに住み替え経験がある人が対象)

○20歳以降に住み替え経験がある人を対象に見ると、一番初めに住んでいた住宅を除き、住み替え回数が多くなるにつれ、持家率が高くなる。一方、民営の賃貸住宅に住んでいた比率は、住み替えの回数に関係なく割合が高い。  
○はじめての住み替えでは、自分の就職や結婚が約50%、2回目以降の住み替えでは、自分又は配偶者の転勤・転職が約30%占める。



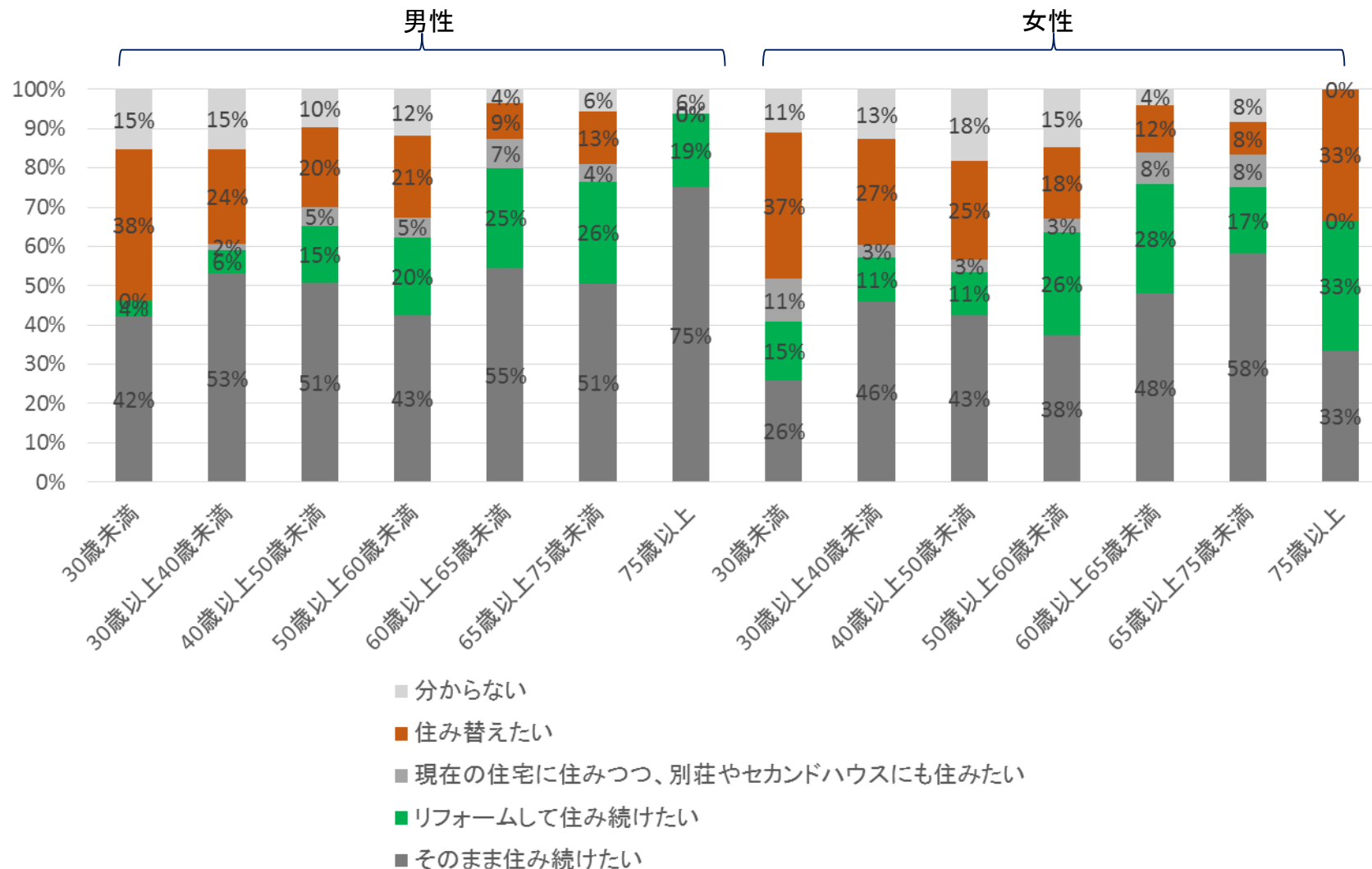
※:現在の住宅が、20歳以降から数えて5軒目以上の場合、直近の住宅の種類と、住み替え理由を示している。  
出典:国土交通行政モニターアンケートより住宅局が作成



## 2. 現在の住まいに対する満足度

# 現在住んでいる住宅からの住み替え意向(性別年齢別)

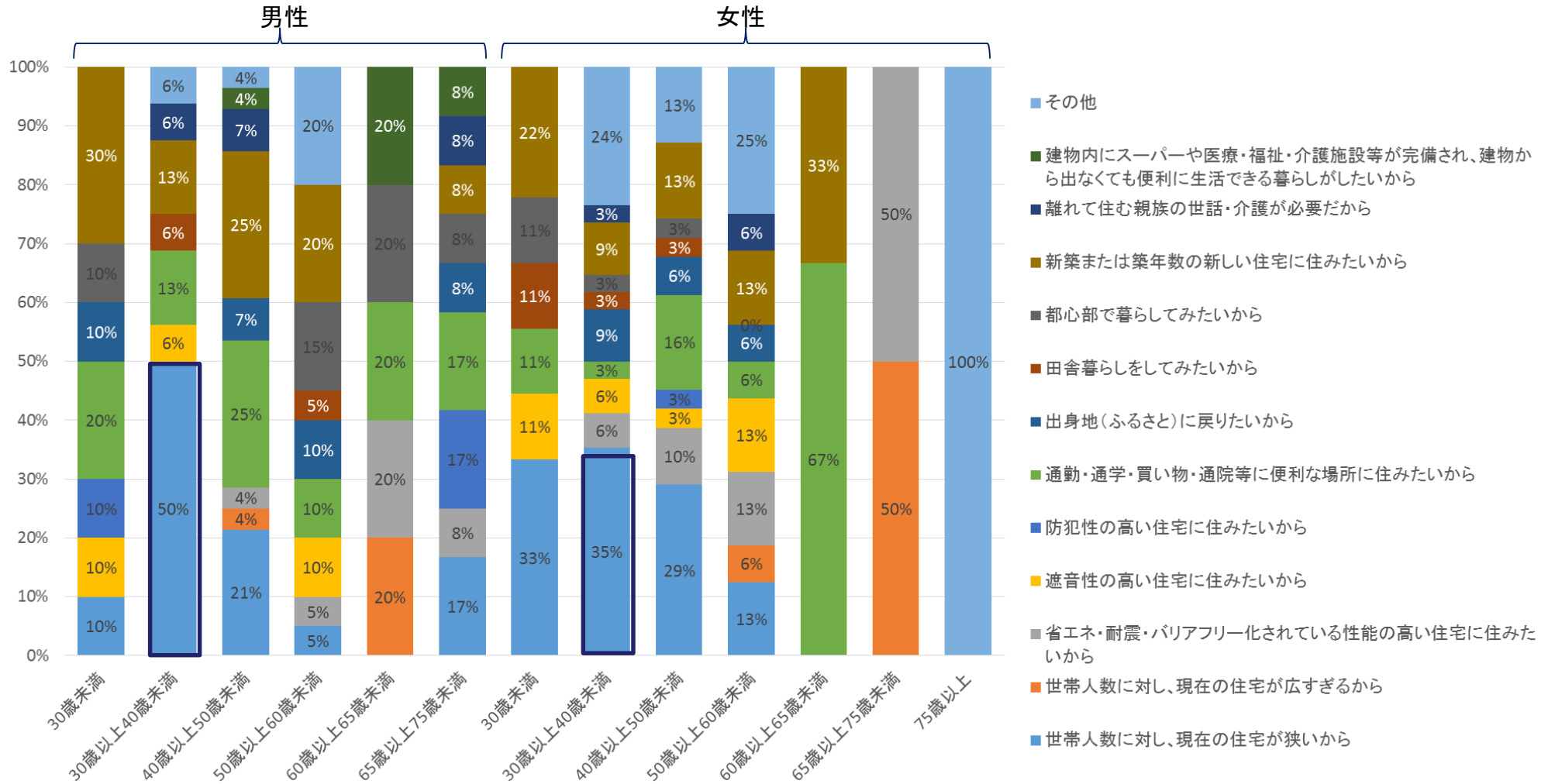
○若い世代ほど、現在住んでいる住宅からの住み替え意向が強い。  
 ○一方で、年齢が高い世代ほど、リフォームして現在住んでいる住宅に住みたい意向が強い。



# 現在住んでいる住宅から住み替えたい理由(性別年齢別)

## (現在の住宅から住み替えたい人が対象)

○現在の住まいから住み替えたい理由は性別・年代によって様々。  
 ○ただし、30代では世帯人数に対し、現在の住宅が狭いことを理由に住み替えたい人の割合が高い。



注: 現在の住宅から住み替えたい人の人数は、  
 男性が30歳未満: 10名、30歳以上40歳未満: 16名、40歳以上50歳未満: 28名、50歳以上60歳未満: 20名、60歳以上65歳未満: 5名、65歳以上75歳未満: 12名、75歳以上: 0名、  
 女性が30歳未満: 9名、30歳以上40歳未満: 34名、40歳以上50歳未満: 31名、50歳以上60歳未満: 16名、60歳以上65歳未満: 3名、65歳以上75歳未満: 2名、75歳以上: 1名  
 出典: 国土交通行政モニターアンケートより住宅局が作成

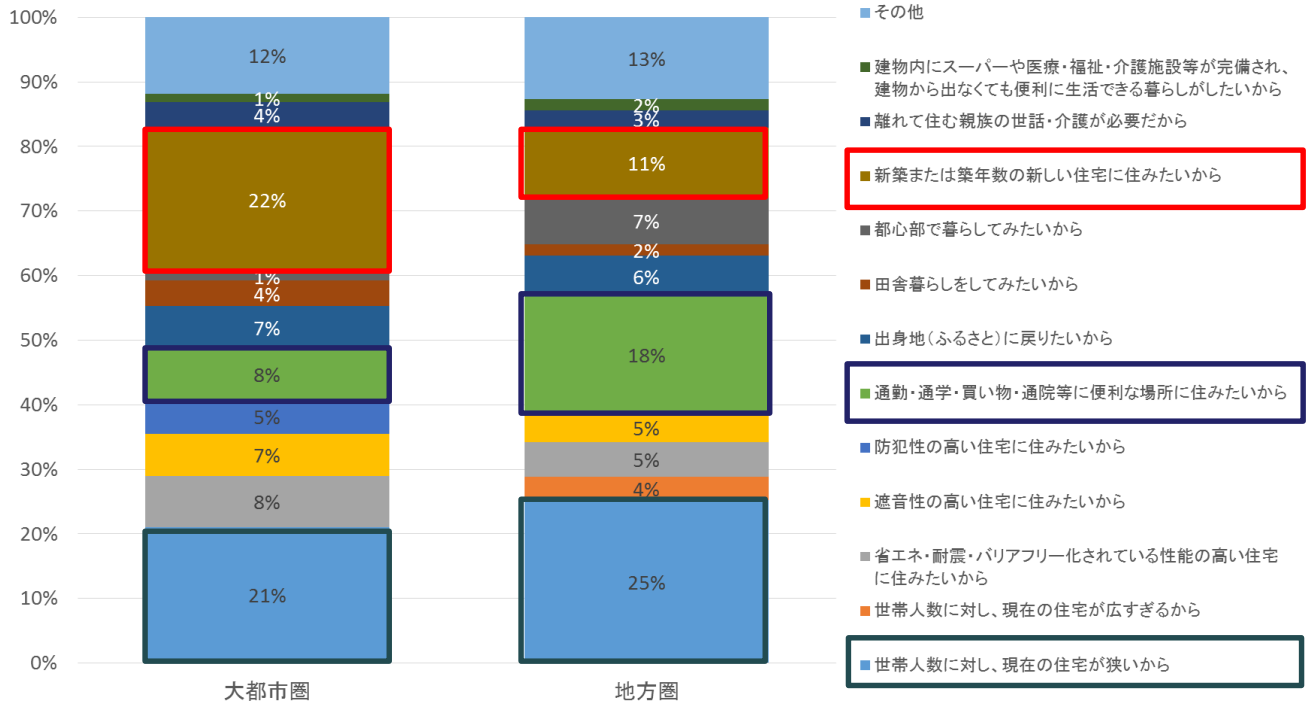
# 現在住んでいる住宅からの住み替え意向と住み替えしたい理由(現在の住宅から住み替えたい人が対象)(大都市圏・地方圏別)

○現在住んでいる住宅からの住み替え意向の割合は、大都市圏、地方圏で差はほとんどない。  
 ○ただし、住み替えたい人を対象に住み替えしたい理由を見ると、共通して「世帯人数に対し、現在の住宅が狭いから」という理由が多く、大都市圏では「新築または築年数の新しい住宅に住みたいから」、地方圏では「通勤・通学・買い物・通院等に便利な場所に住みたいから」という理由が多い。

### 現在住んでいる住宅からの住み替え意向



### 住み替えしたい理由(現在の住宅から住み替えたい人が対象)



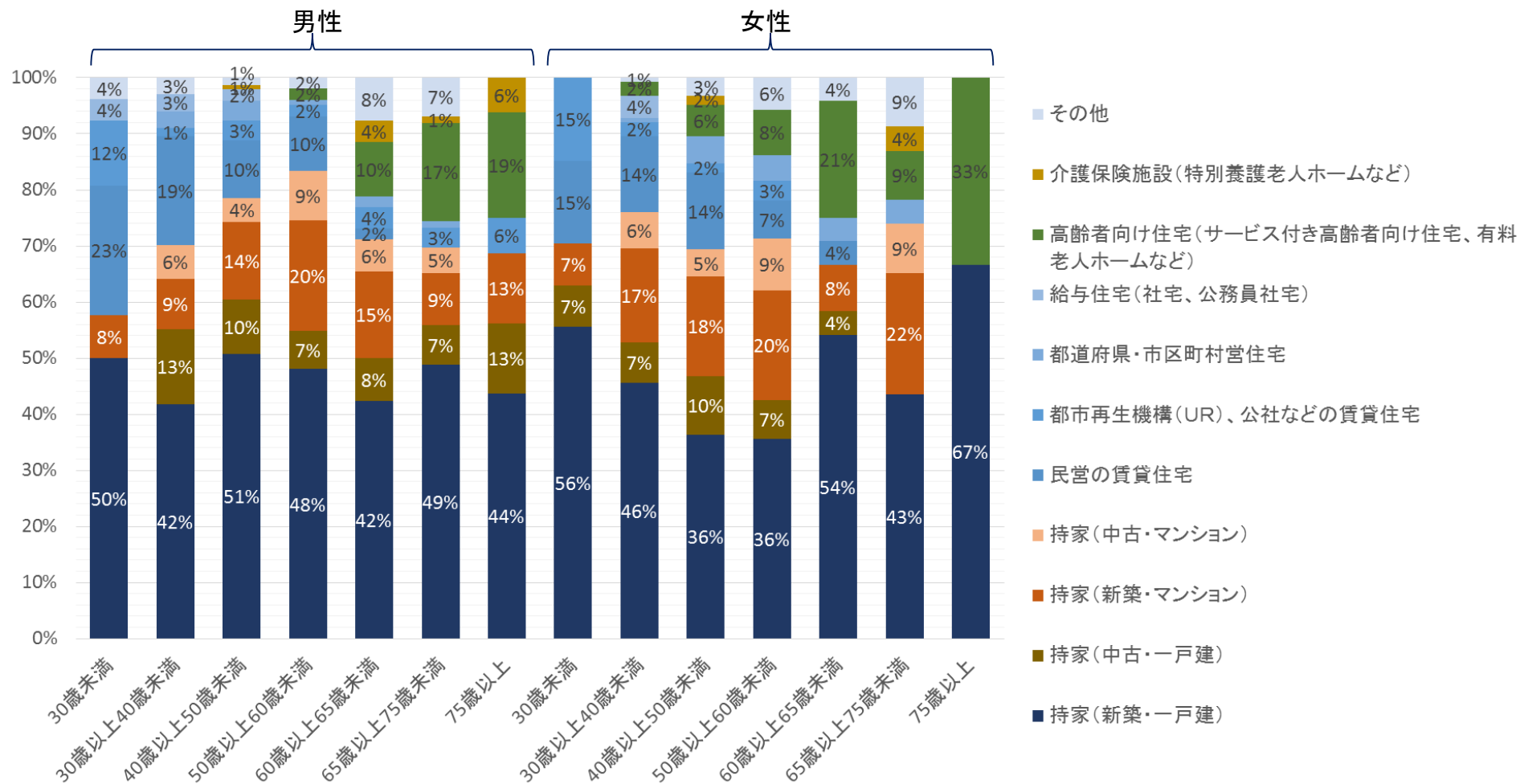
- 分からない
- 住み替えたい
- 現在の住宅に住みつつ、別荘やセカンドハウスにも住みたい
- リフォームして住み続けたい
- そのまま住み続けたい

- その他
- 建物内にスーパーや医療・福祉・介護施設等が完備され、建物から出なくても便利に生活できる暮らしがしたいから
- 離れて住む親族の世話・介護が必要だから
- 新築または築年数の新しい住宅に住みたいから
- 都心部で暮らしてみたいから
- 田舎暮らしをしてみたいから
- 出身地(ふるさと)に戻りたいから
- 通勤・通学・買い物・通院等に便利な場所に住みたいから
- 防犯性の高い住宅に住みたいから
- 遮音性の高い住宅に住みたいから
- 省エネ・耐震・バリアフリー化されている性能の高い住宅に住みたいから
- 世帯人数に対し、現在の住宅が広すぎるから
- 世帯人数に対し、現在の住宅が狭いから

注：大都市圏は住生活基本法施行令で定める都道府県(茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県、岐阜県、三重県、京都府、大阪府、兵庫県及び奈良県)が対象。  
 地方圏はそれ以外を指す。なお、世帯主が、通勤・通学していない場合は除いている。  
 出典：国土交通行政モニターアンケートより住宅局が作成

# 今後住むとしたら、どんな住宅に住みたいか

○どの世代も、今後住むとしたら持家に住みたいという割合が高いが、20代男性においては他の年代より相対的に持家に住みたい割合が低い。  
 ○持家の中でも中古より新築に住みたい割合が高い(特に新築の一戸建の割合が高い)。

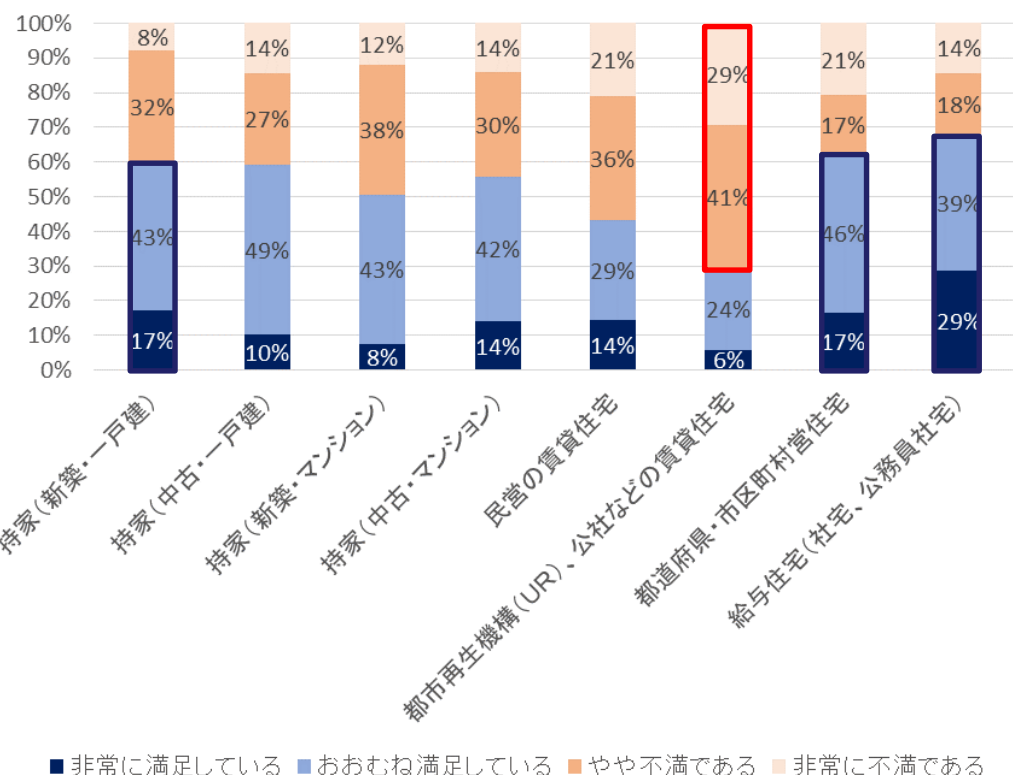
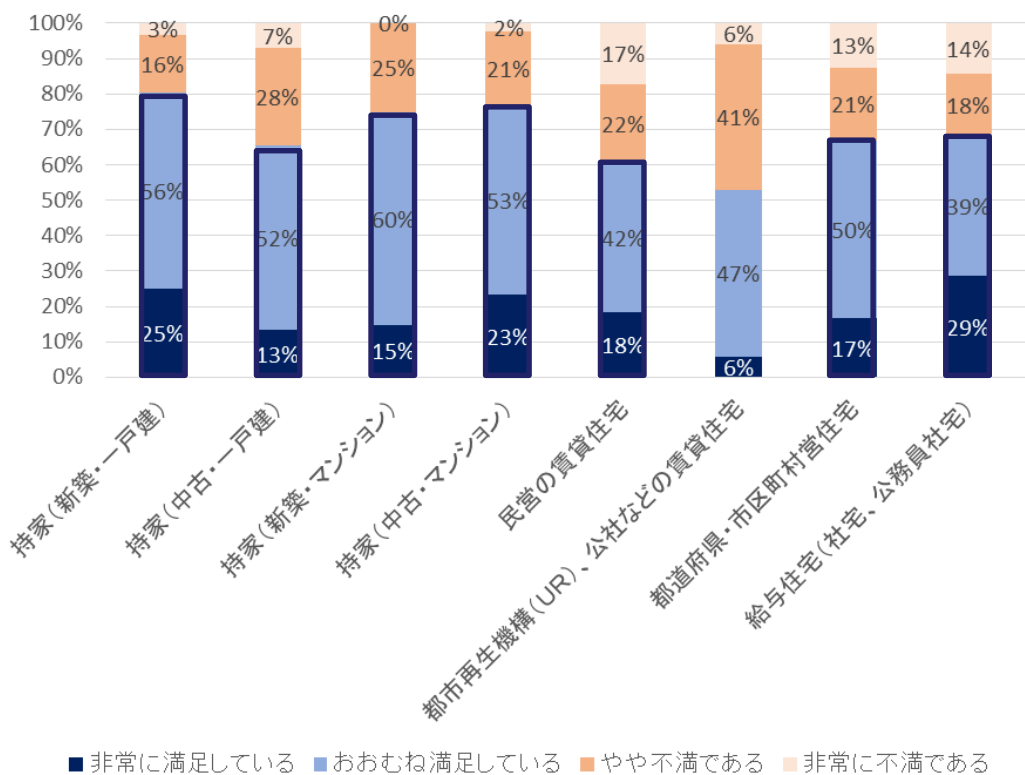


# 現在住んでいる住宅に対する満足度 (広さ・間取りと収納スペース)

○住宅の種類に関わらず、半数以上が広さ・間取りに対して満足している (UR・公社を除いて、満足している割合は60%以上)。  
 ○収納スペースに関して、持家(新築・一戸建)、都道府県・市区町村営住宅、給与住宅において満足している割合は60%以上を占めており、一方でUR・公社などの賃貸住宅においては、不満である割合が60%以上を占めている。

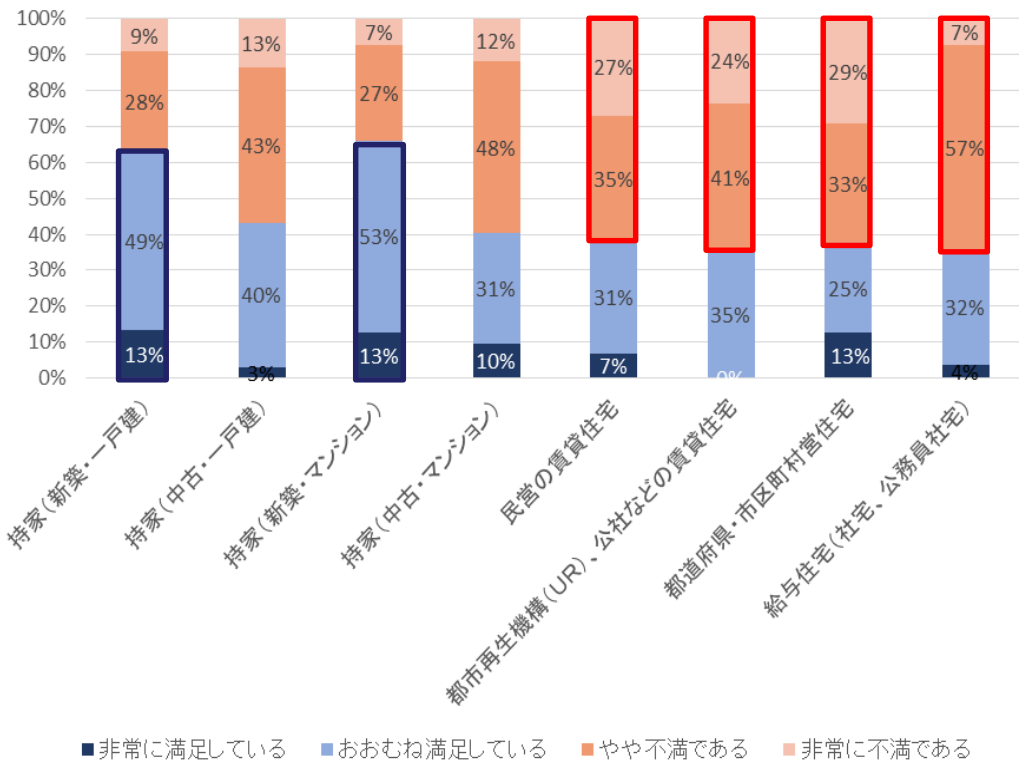
## 広さ・間取りに対する満足度

## 収納スペースに対する満足度

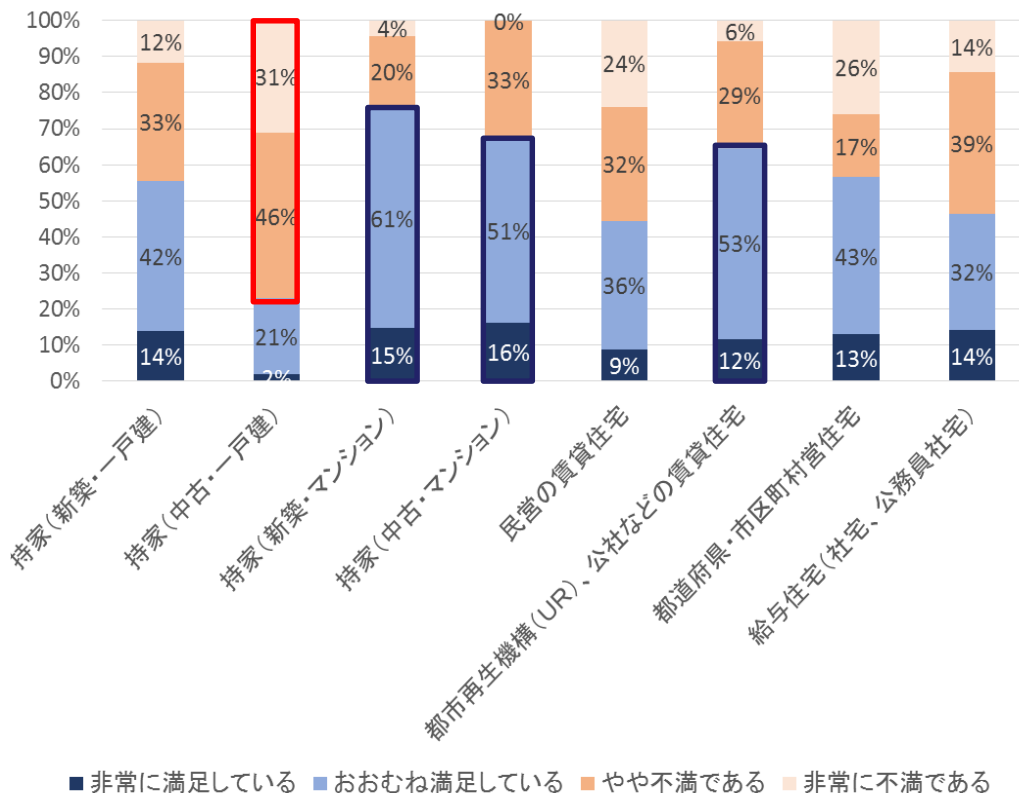


- 外部からの騒音に対する遮音性に関して、持家(新築・一戸建)、持家(新築・マンション)において満足している割合は60%以上を占めている。一方で、借家においては、不満である割合が60%以上を占めている。
- 断熱性・気密性に関して、持家(新築/中古・マンション)、UR・公社などの賃貸住宅において満足している割合は60%以上を占めている。一方で持家(中古・一戸建)においては、不満である割合が60%以上を占めている。

外部からの騒音に対する遮音性に対する満足度

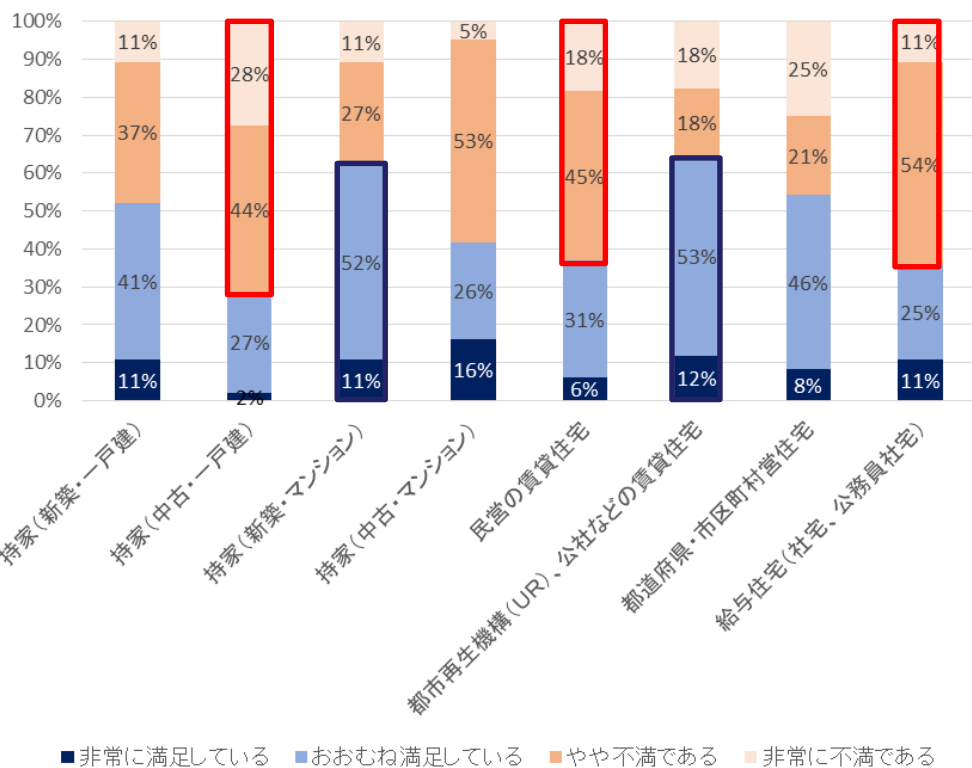


断熱性・気密性に対する満足度

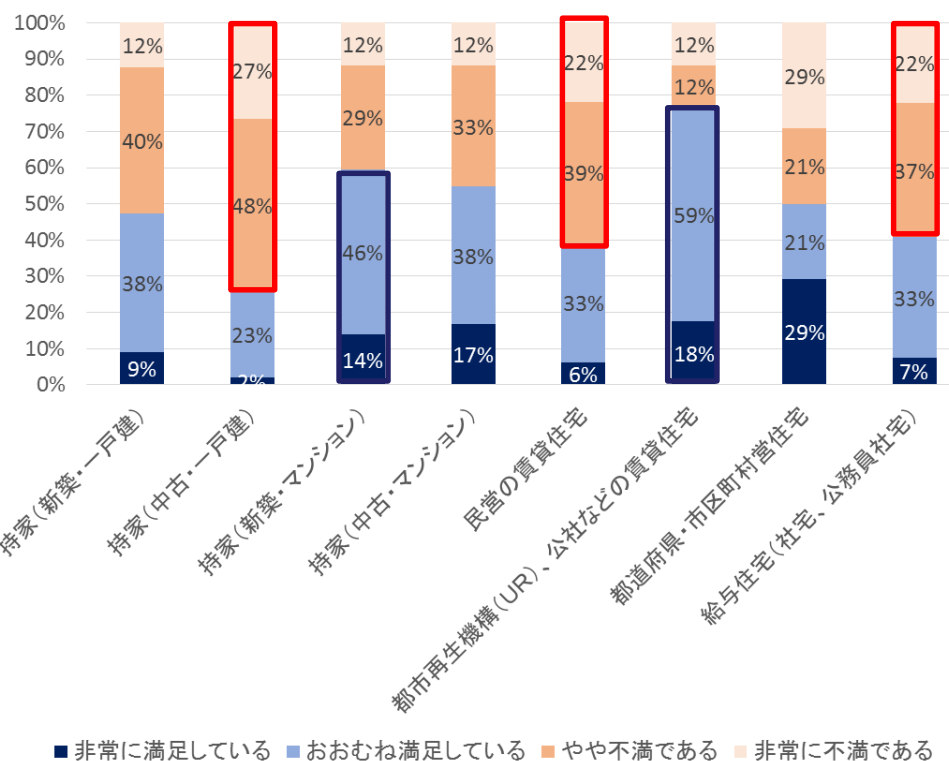


○冷暖房や照明などの設備の省エネ性能、高齢者等への配慮(バリアフリー性など)に関して、持家(新築・マンション)、UR・公社などの賃貸住宅において満足している割合は60%以上を占めており、一方で持家(中古・一戸建)、民営の賃貸住宅、給与住宅においては、不満である割合が60%以上を占めている。

### 冷暖房や照明などの設備の省エネ性能に対する満足度



### 高齢者等への配慮(バリアフリー性など)に対する満足度

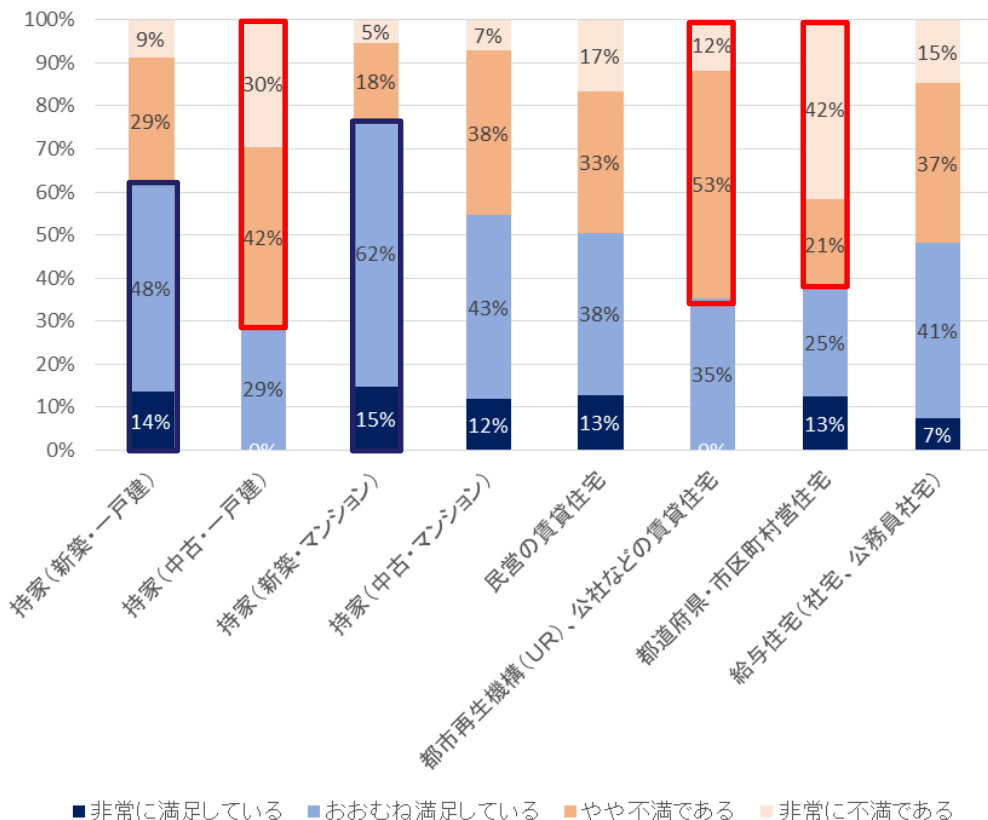




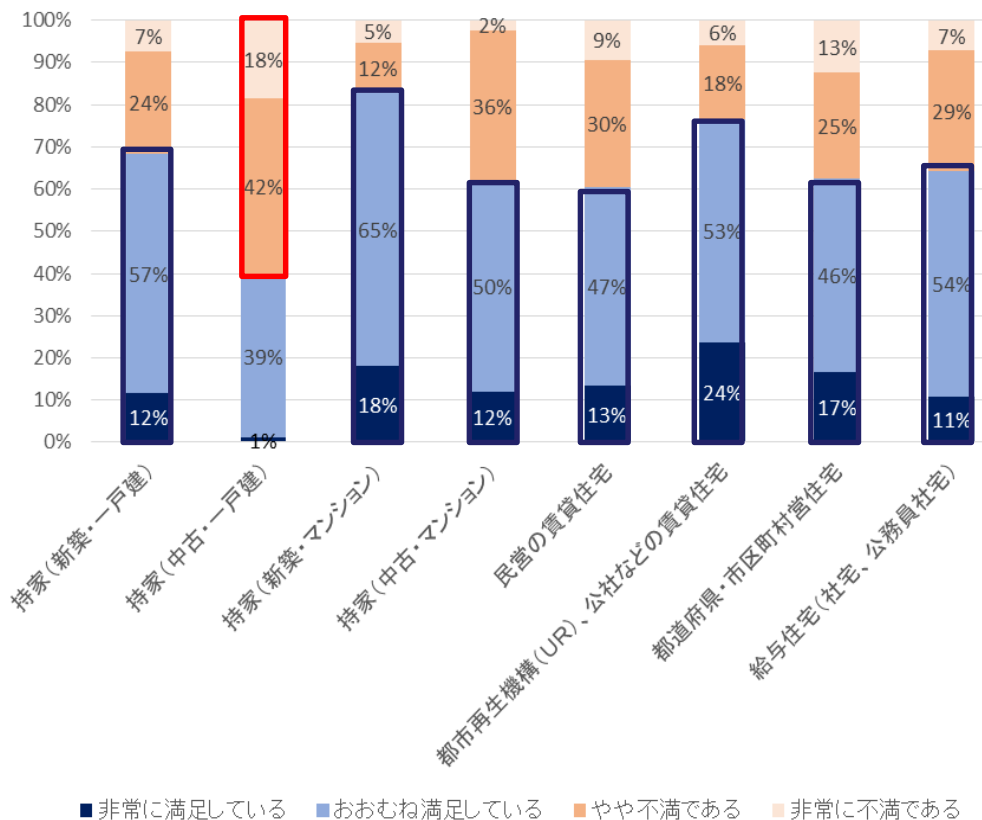
○いたみの少なさに関して、持家(新築・一戸建、新築・マンション)において満足している割合は60%以上を占めており、一方で持家(中古・一戸建)、UR、公社などの賃貸住宅、都道府県・市区町村営住宅においては、不満である割合が60%以上を占めている。

○維持や管理のしやすさに関して、持家(中古・一戸建)において不満である割合が60%以上を占めており、その他の種類の住宅では満足している割合が60%以上を占めている。

いたみの少なさに対する満足度

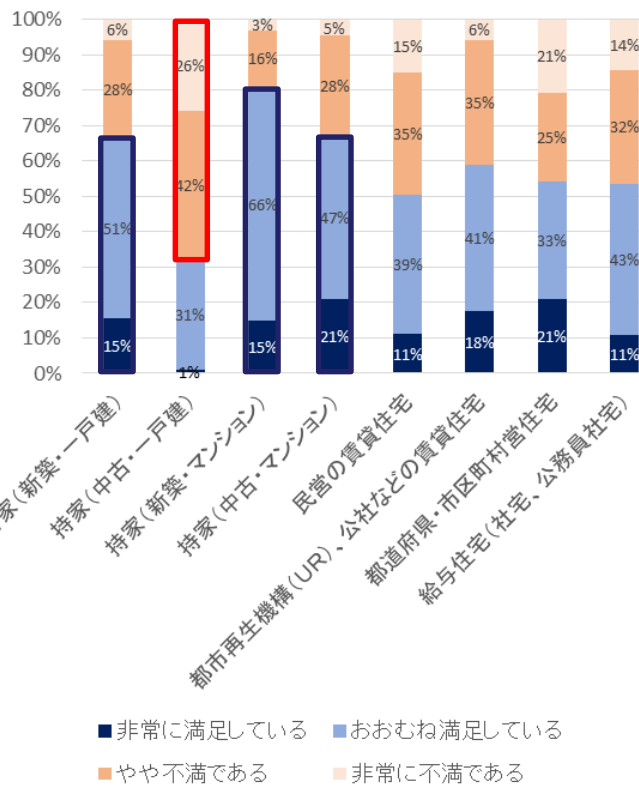


維持や管理のしやすさに対する満足度

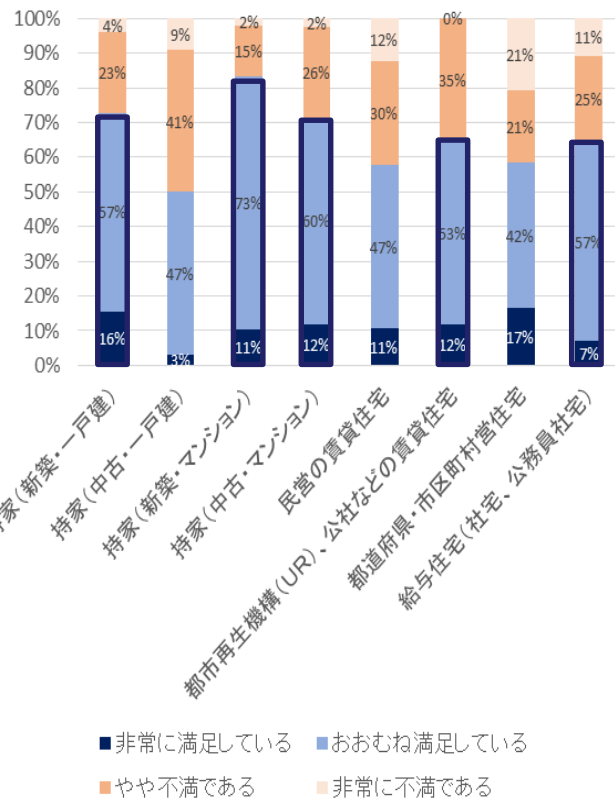


○地震・台風時の安全性、火災時の避難の安全性、防犯性に関して、持家(新築・一戸建、新築/中古・マンション)において満足している割合は60%以上を占めている。一方で、持家(中古・一戸建)においては、地震・台風時の安全性、防犯性について不満である割合が60%以上を占めている。

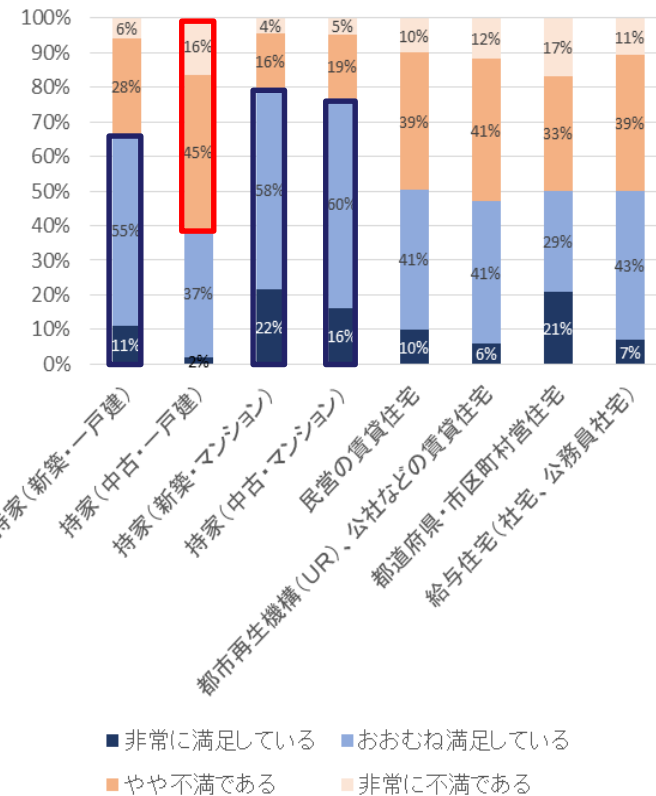
地震・台風時の安全性に対する満足度



火災時の避難の安全性に対する満足度



防犯性に対する満足度



# 現在住んでいる住宅の周辺環境に対する満足度

○公共交通機関や買物施設等へのアクセスの良さや、災害や交通に関する安全性、医療、教育環境、子どもの遊び場等の充実、親・子・親戚等の住宅との距離に対する満足度は、大都市圏が地方圏を上回る。  
 ○騒音、大気汚染等の少なさ、近隣住民やコミュニティとの交流・つながり、景観の良さに対する満足度は、地方圏が大都市圏を上回る。  
 ○現在住んでいる住宅の周辺環境に関する多くの項目に対して、大都市圏・地方圏とも満足している割合が60%以上を占めている。

公共交通機関へのアクセスの良さ

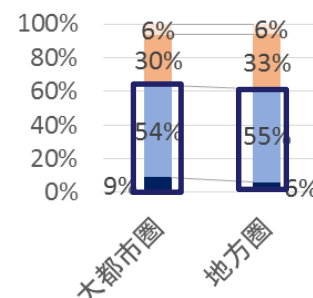
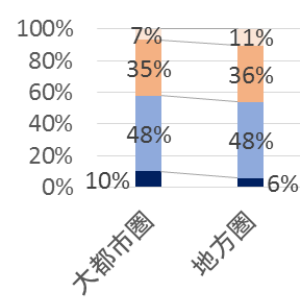
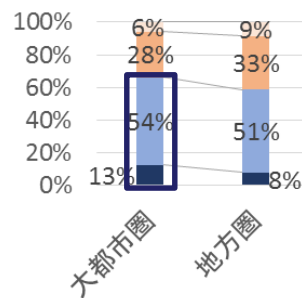
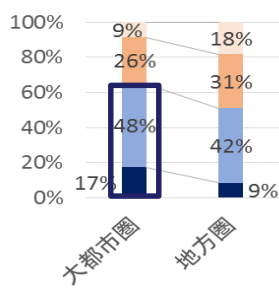
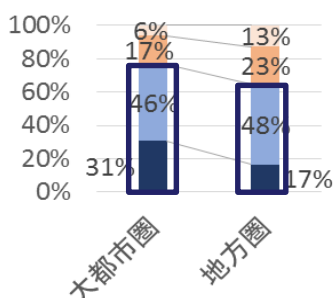
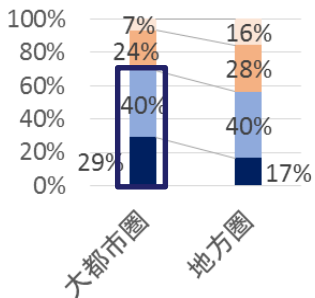
買物施設等へのアクセスの良さ

図書館、美術館、公民館等へのアクセスの良さ

地震、台風などの災害に対する安全性

周辺道路の歩行時等の安全性

犯罪、交通事故等の人災に対する安全性



医療・福祉・介護施設の充実

教育環境の充実

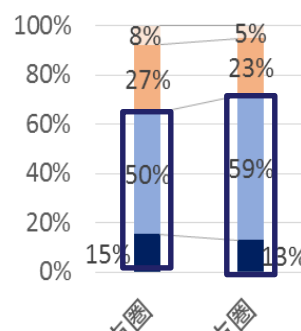
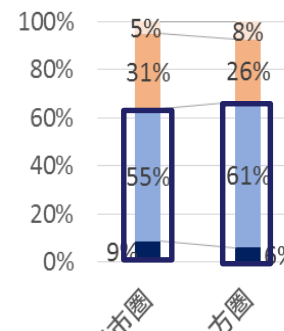
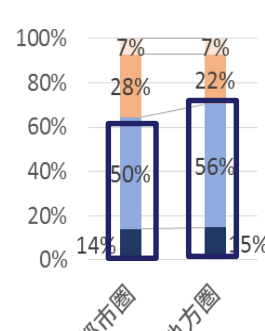
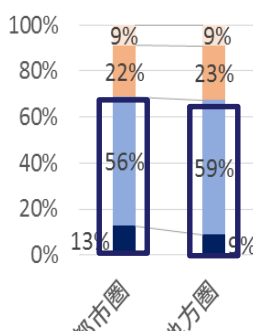
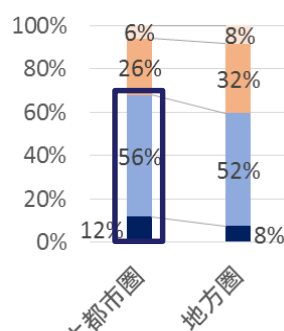
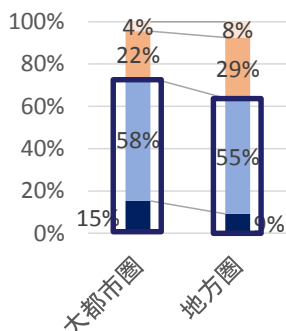
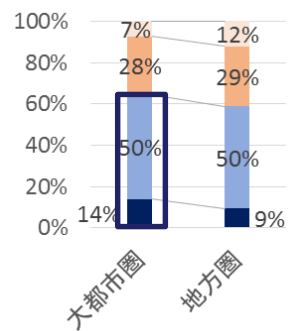
子どもの遊び場、公園等、子育て環境の充実

親・子・親戚等の住宅との距離

騒音、大気汚染等の少なさ

近隣住民やコミュニティとの交流・つながり

景観の良さ



■非常に満足している ■おおむね満足している ■やや不満である ■非常に不満である

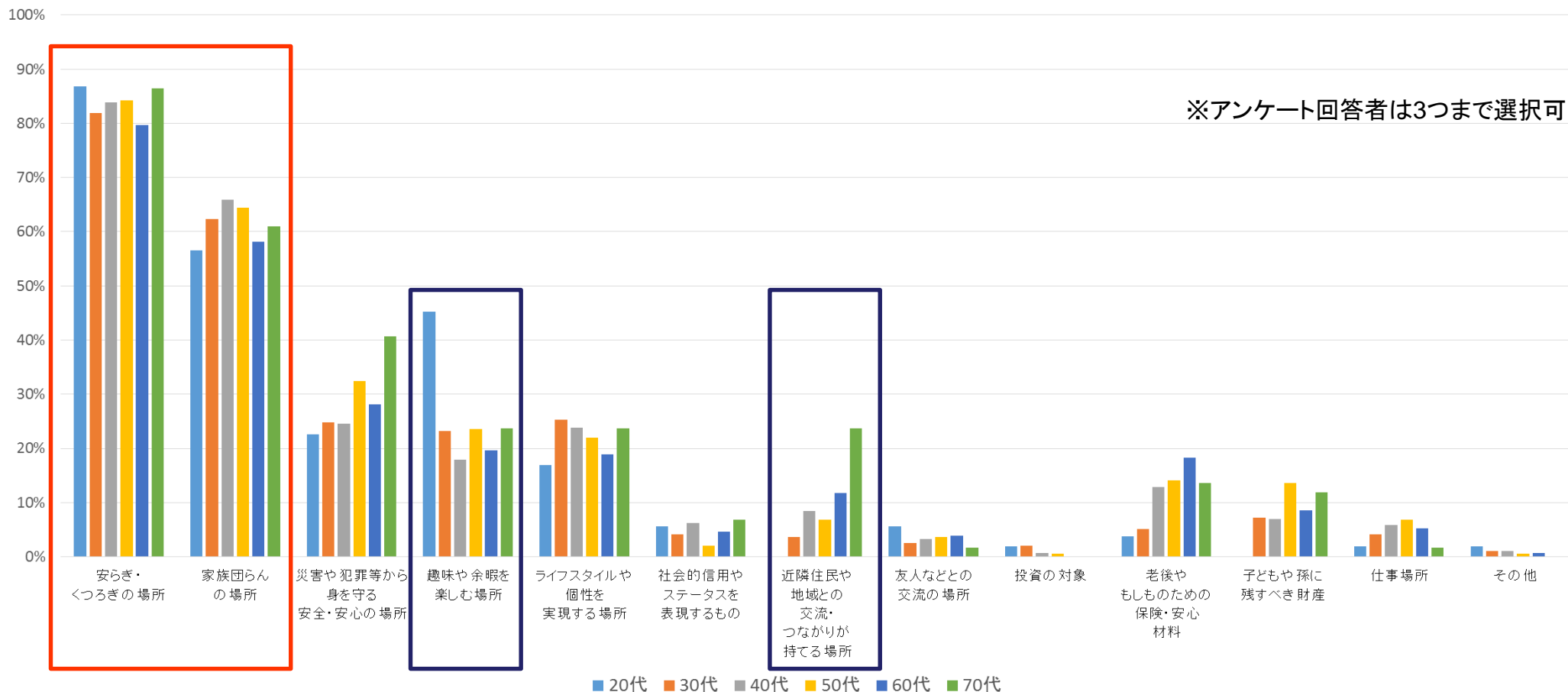
注：大都市圏は住生活基本法施行令で定める都道府県（茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県、岐阜県、三重県、京都府、大阪府、兵庫県及び奈良県）が対象。地方圏はそれ以外を指す。

出典：国土交通行政モニターアンケートより住宅局が作成

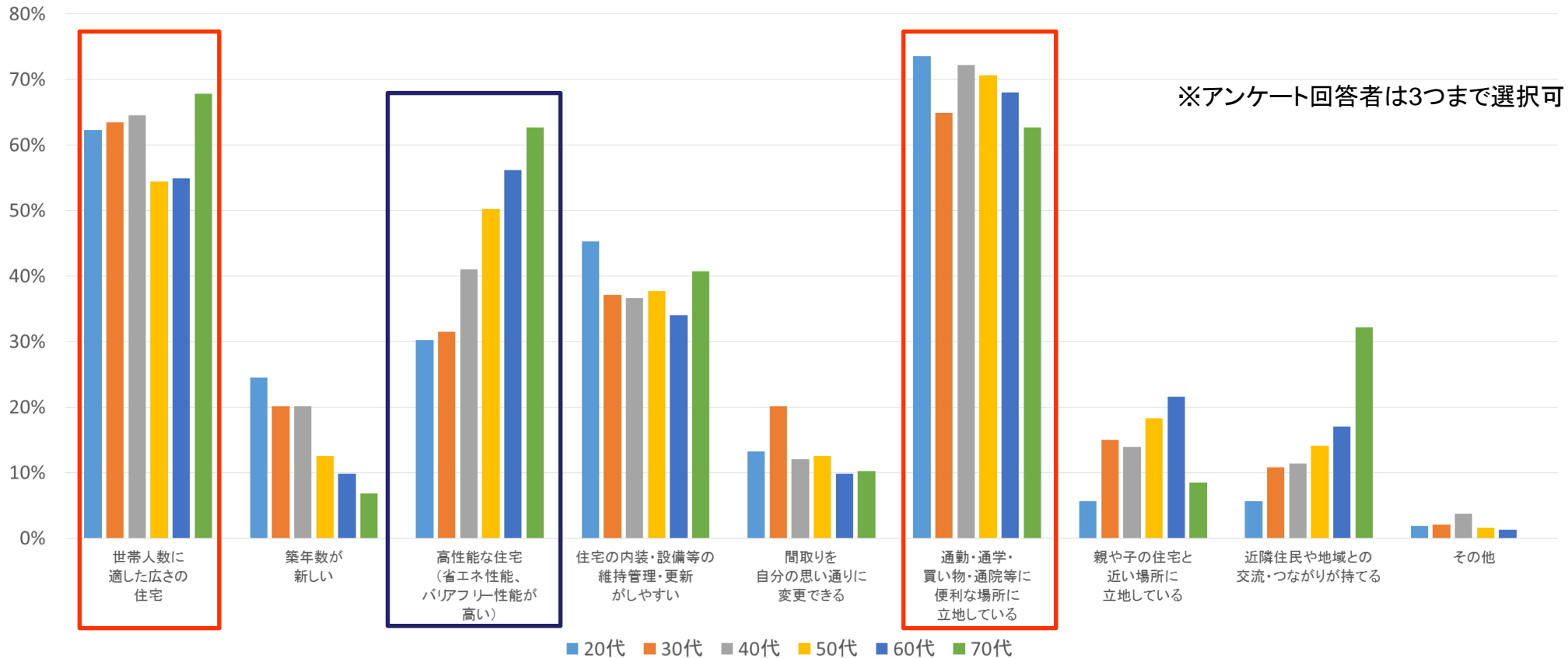
### 3. 住まいに関するニーズ

# あなたにとってのお住まいとは

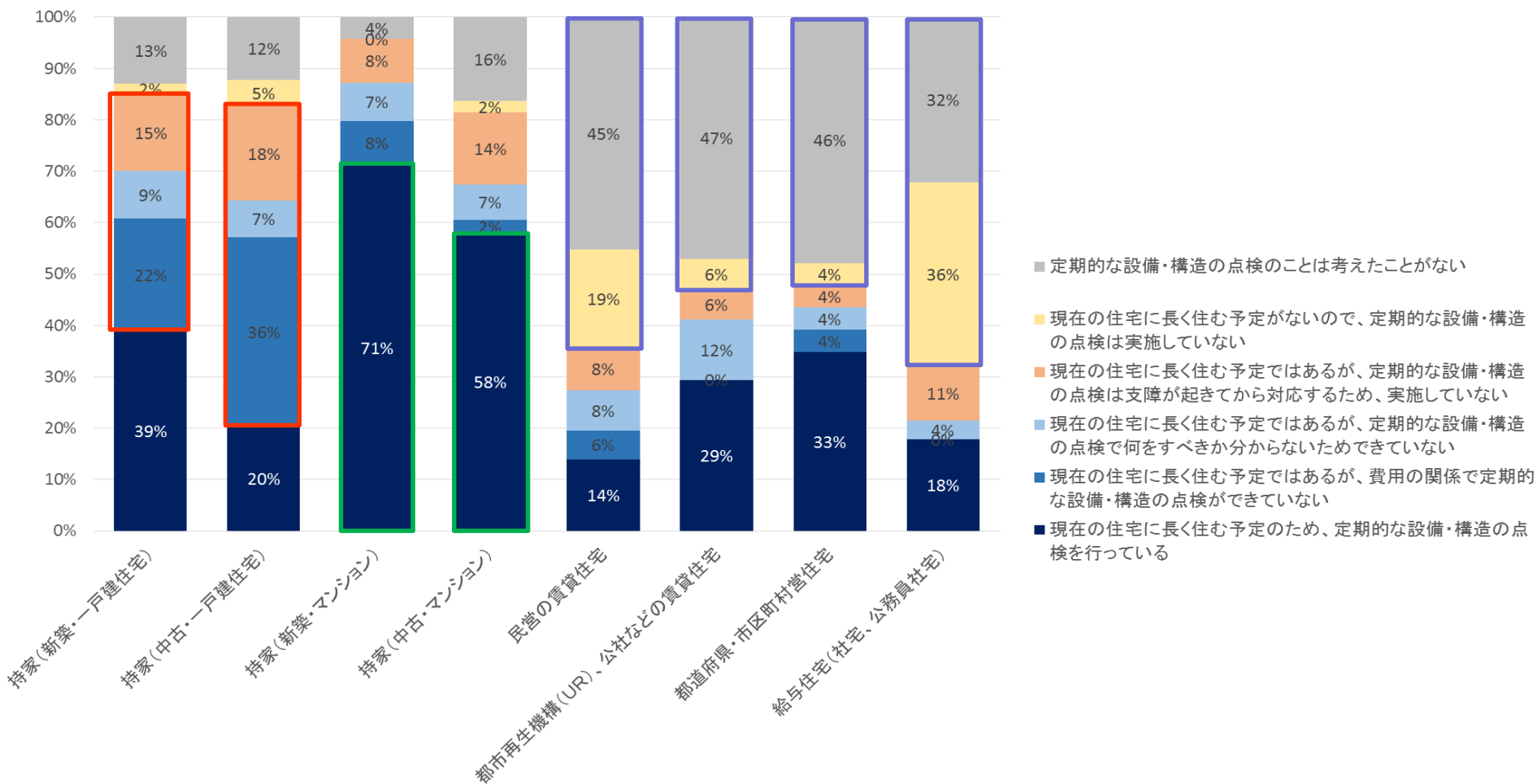
○住まいは、どの世代も多くが「安らぎ・くつろぎの場所」、「家族団らんの場所」として捉えられている。  
 ○住まいを「趣味や余暇を楽しむ場所」、「近隣住民や地域との交流・つながりが持てる場所」として捉えるかどうかは、世代によって捉え方の差が大きい。



- 豊かな住生活の実現のために、どの世代も「世帯人数に適した広さの住宅」と、「通勤・通学・買い物・通院等に便利な場所に立地している」ことを重視している。
- 年齢が高くなるにつれて、高性能な住宅(省エネ性能・バリアフリー性能が高い)を重視する割合が高くなる。



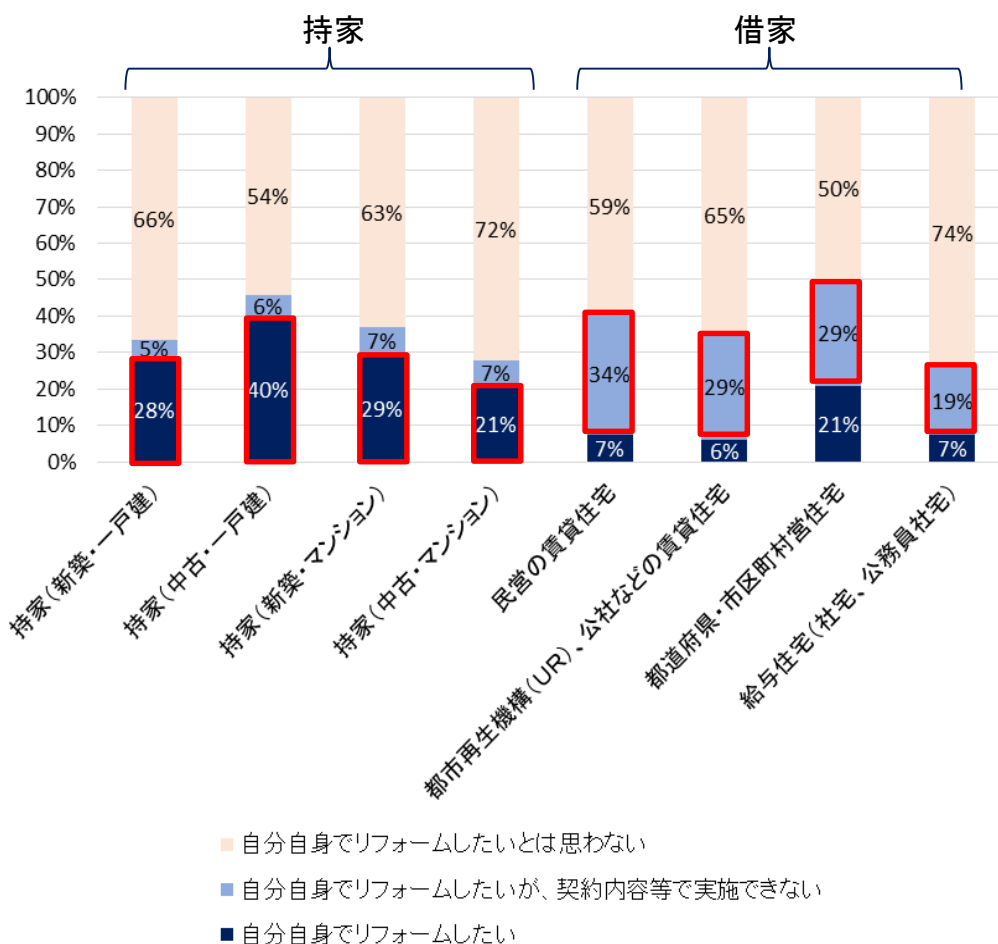
- 持家(一戸建)の居住者は、その住宅に長く住む意向はあるが、費用の関係、支障が起きてから対応する、又は何をすべきか分からないといった理由で、定期的な設備・構造の点検を行っていない割合が高い(約50%~60%)。
- 持家(マンション)の居住者は、定期的な設備・構造の点検を行っている割合が高い(約60%~70%)。
- 借家の居住者は、定期的な設備・構造の点検のことは考えたことがない、又はその住宅に長く住む予定がないといった理由で、定期的な設備・構造の点検を実施していない割合が高い(約50%~70%)。



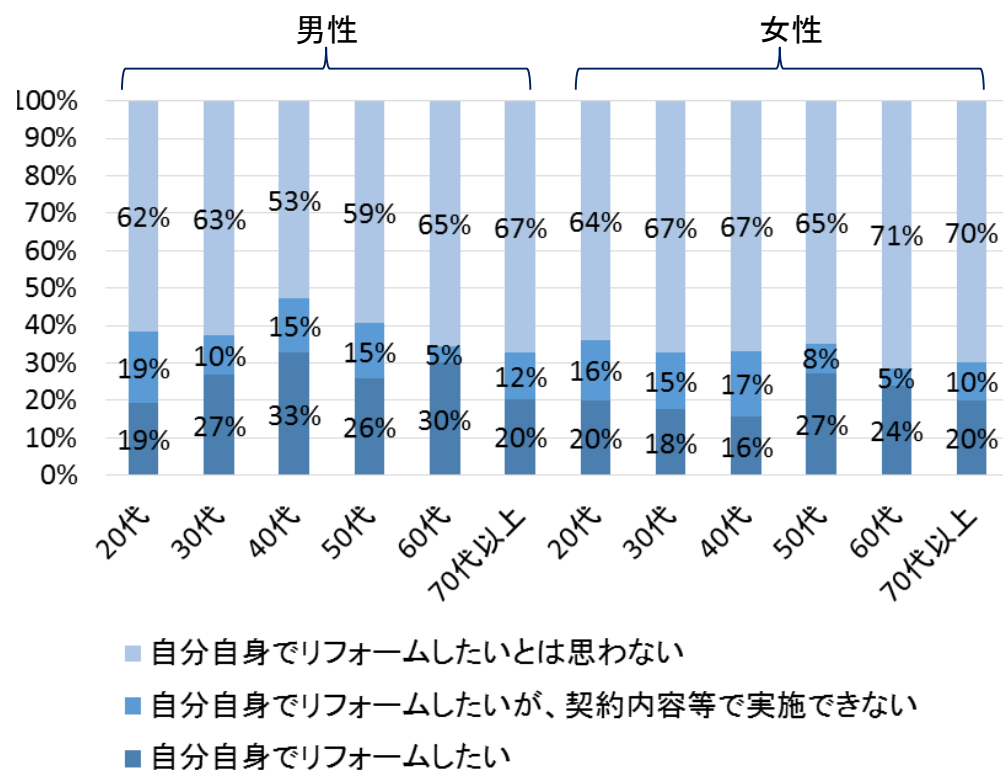
# 現在住んでいる住宅に対するDIYリフォーム意向

- 持家においては、自分自身でリフォームしたいと考えている人が約20%~40%存在する。
- 民営の賃貸住宅などの借家においては、自分自身でリフォームしたいという意向はあるものの、契約内容等で実施できないという人の割合が約20~30%存在する。
- 自分自身でリフォームしたいと考えている人は、男女ともに約30~40%程度存在する。

## 現在居住している住宅に対するDIYリフォーム意向 (住宅の種類別)



## 現在居住している住宅に対するDIYリフォーム意向 (年齢別)

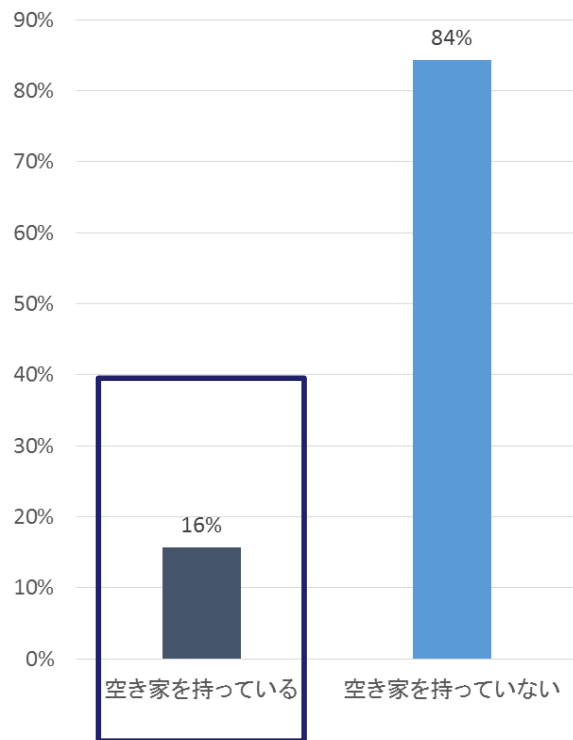




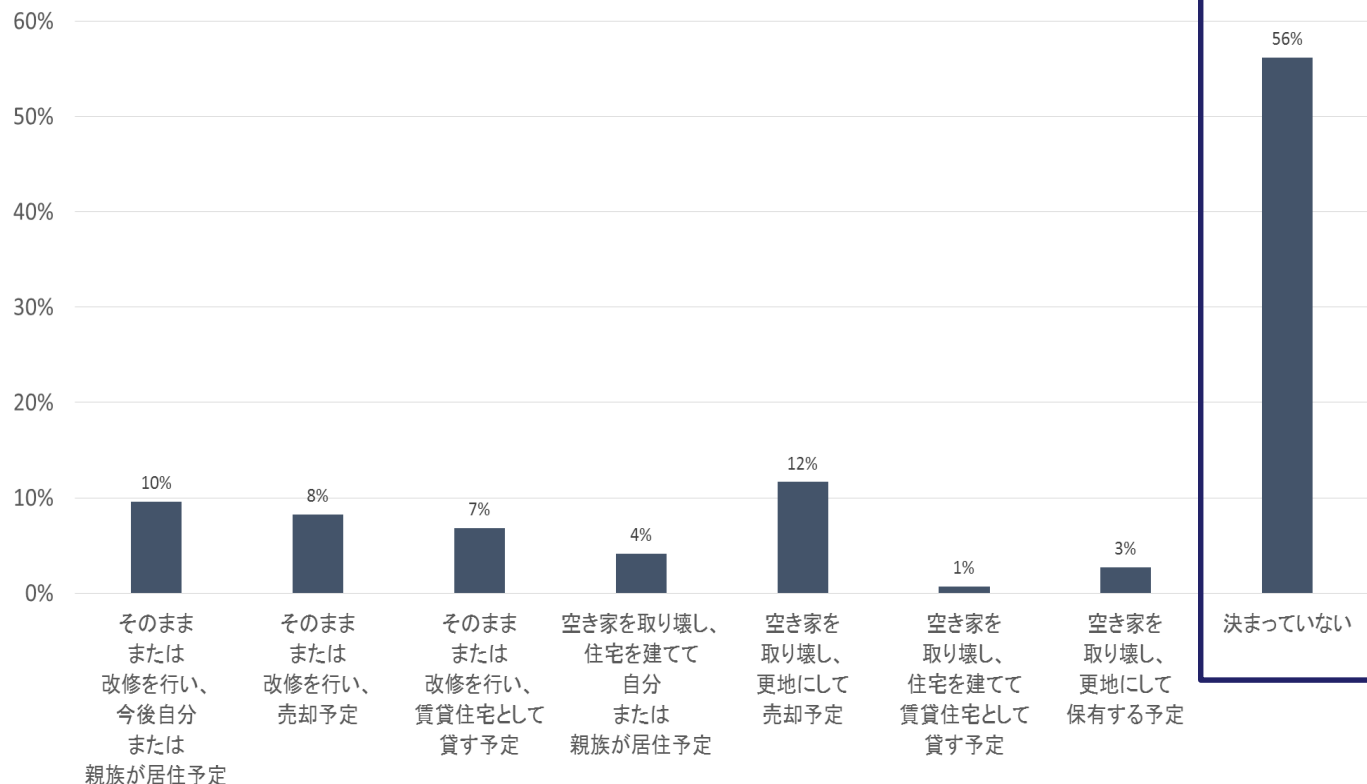
# 空き家の所有状況と予定する活用方法

- 自分または親族のうち16%が空き家を所有。
- そのうち、約半数以上が空き家をどのように活用するか決まっていない。

## 自分または親族の空き家所有状況



## 予定する空き家の活用方法

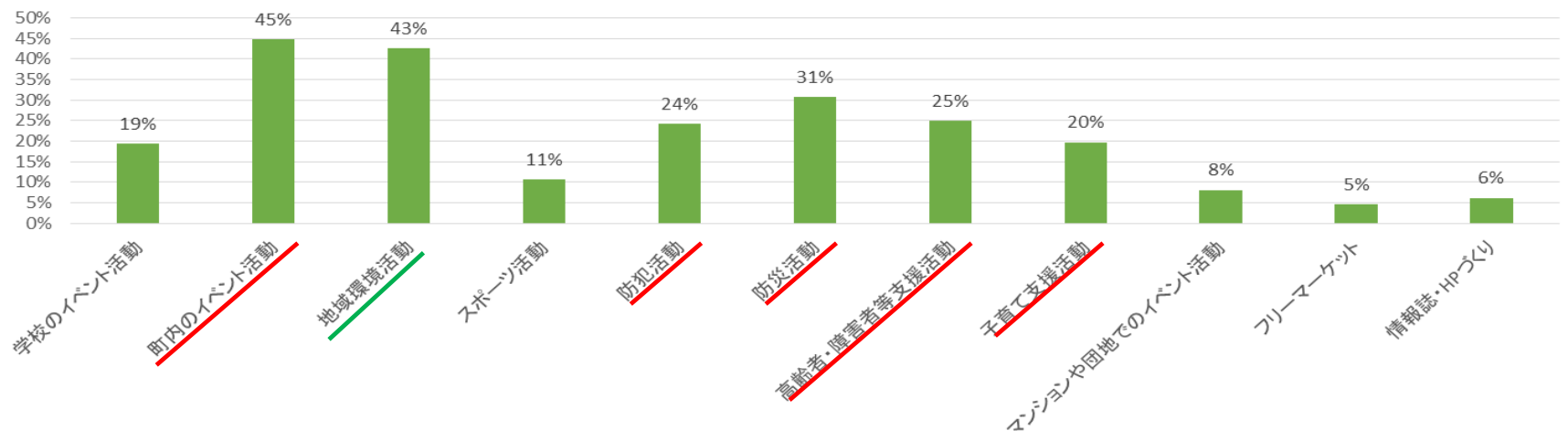


## 4. 近隣住民や地域との交流・つながりに関するニーズ

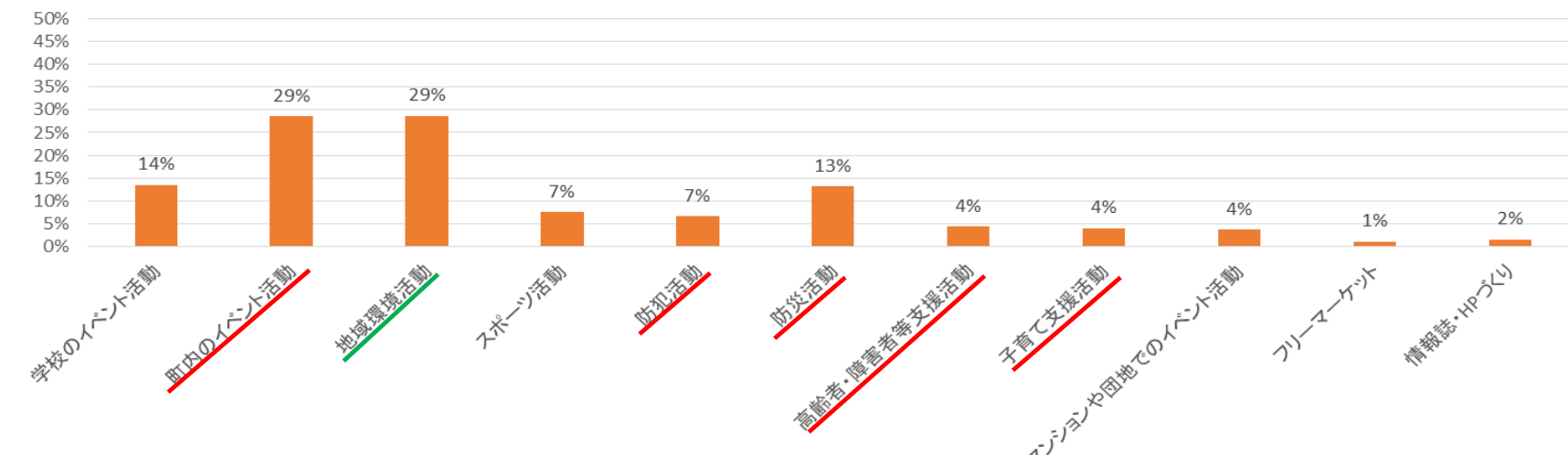
# 近隣住民や地域との交流・つながりを持つために効果的と考える活動と実際の参加状況

○「地域環境活動」は、近隣住民や地域との交流・つながりを持つために効果が高いと考えられており、実際にも参加している人の割合が大きい。  
 ○一方で、「町内のイベント活動」、「防犯活動」、「防災活動」、「高齢者・障害者等支援活動」、「子育て支援活動」は、近隣住民や地域との交流・つながりを持つために効果が高いと考えられているが、実際に参加している人の割合と比較すると乖離がある。

近隣住民や地域との交流・つながりを持つために、効果的と考える活動



近隣住民や地域との交流・つながりを持つ実際の参加状況

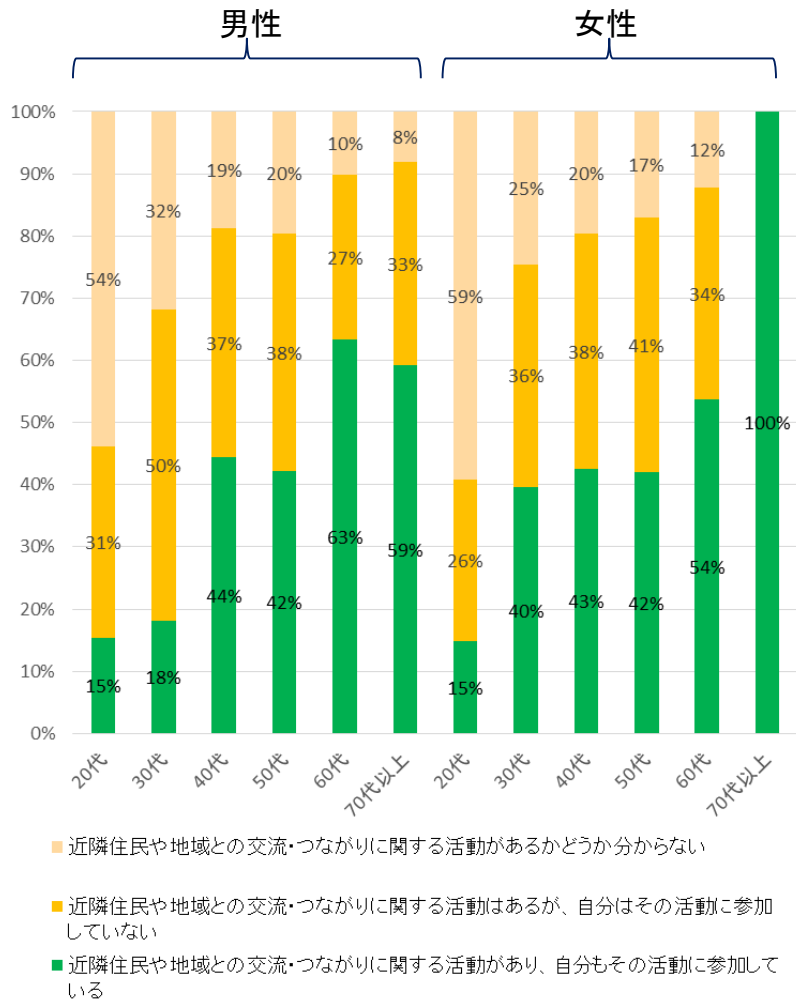


注: 学校のイベント活動は、運動会・球技大会・遠足等、町内のイベント活動は、お祭り・BBQ大会・コンサート等、地域環境活動は、ゴミ拾い・草とり等、スポーツ活動は、球技大会等、防犯活動は、夜間時の見回り等、防災活動は、防災訓練等、高齢者・障害者等支援活動は、外出支援・見守り・家事支援・配食サービス等、子育て支援活動は、親子ふれあい教室・子育て相談・保育ママ等を指す。  
 出典: 国土交通行政モニターアンケートより住宅局が作成

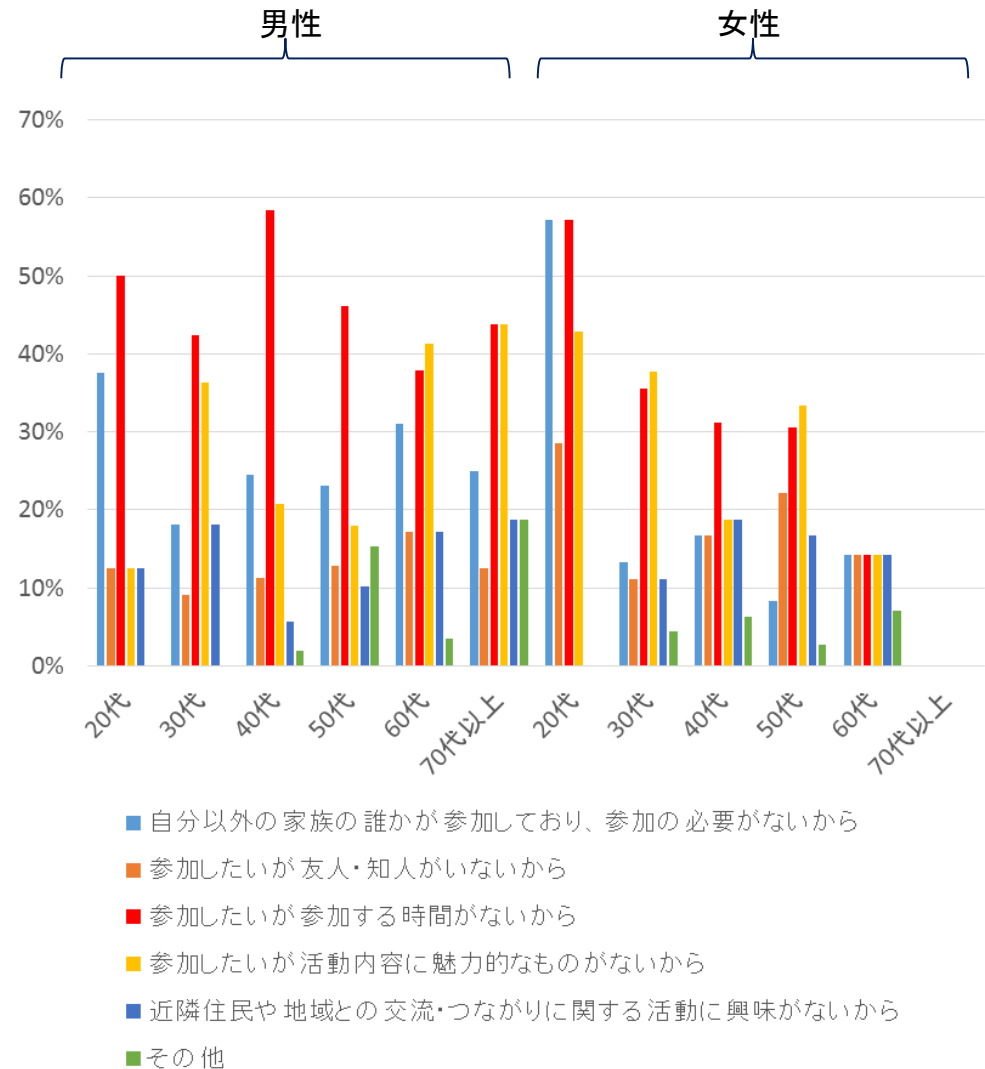
# 近隣住民や地域との交流・つながりを持つ活動への参加状況

○若い世代は近隣住民や地域との交流・つながりを持つ活動に自らが参加する人の割合は低く、年齢が高くなるほど参加する人の割合は高くなる。  
 ○近隣住民や地域との交流・つながりを持つ活動に参加しない理由は、参加する時間がない、活動内容に魅力的なものがないという理由が多い。

## 近隣住民や地域との交流・つながりを持つ活動への参加状況

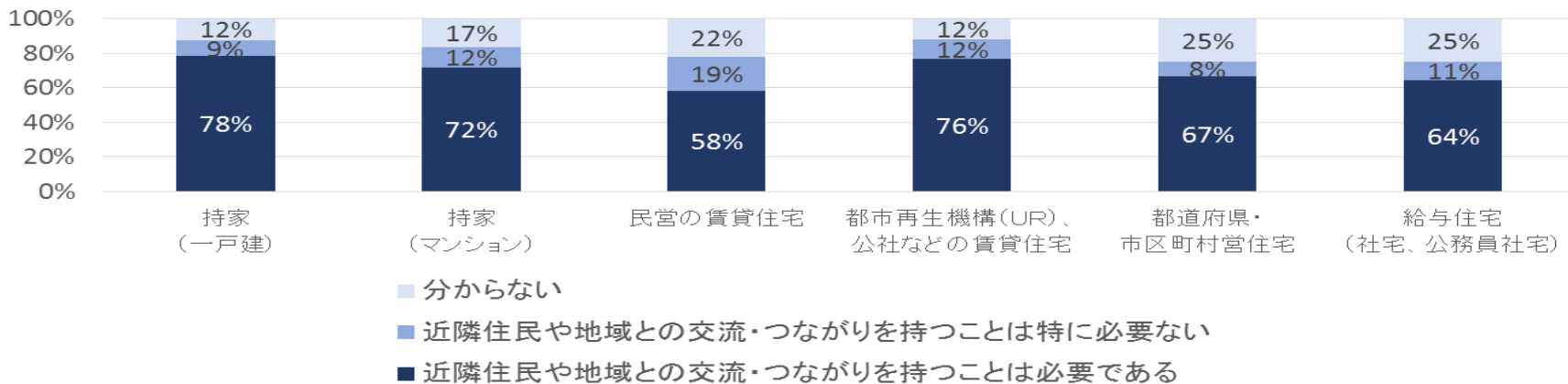


## 近隣住民や地域との交流・つながりはあるが、自らは参加していない理由

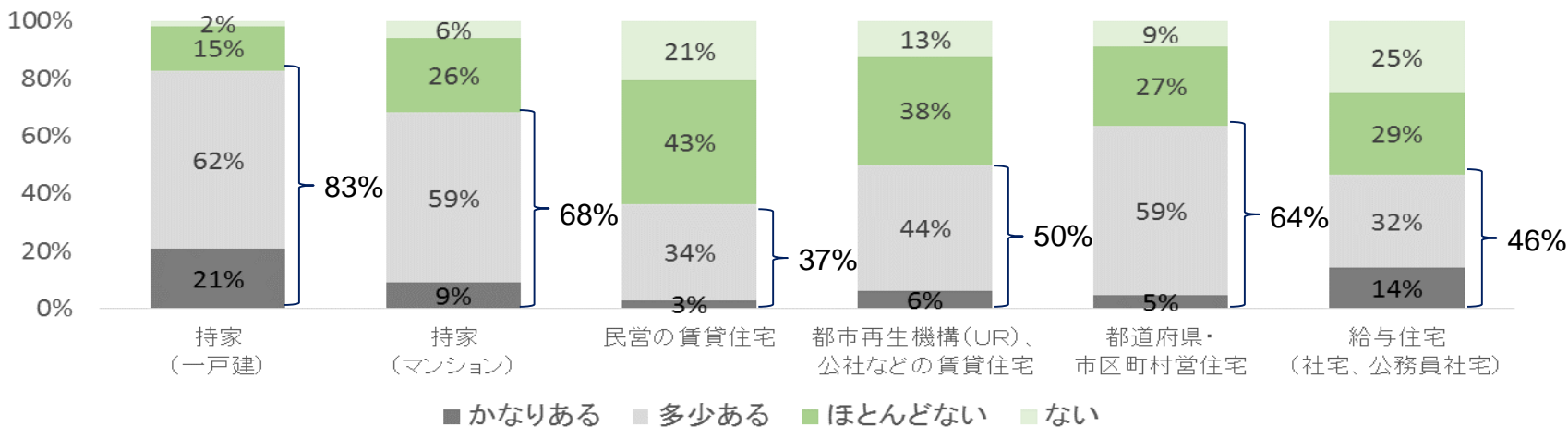


○ほとんどの種類の住宅において、近隣住民や地域との交流・つながりを持つことが必要であるとする居住者の割合は約6割以上。しかし、民営の賃貸住宅においては6割を下回る。  
 ○持家(一戸建、マンション)、都道府県・市区町村営住宅の居住者は、近隣住民や地域との交流・つながりを持つことが必要であるとする割合と実際に活動に参加している割合が同程度。  
 ○一方で、民営の賃貸住宅、都市再生機構(UR)・公社などの賃貸住宅、給与住宅の居住者においては、近隣住民や地域との交流・つながりを持つことが必要であるとする割合と実際に活動に参加している割合に乖離がある。

近隣住民や地域との交流・つながりに対する考え



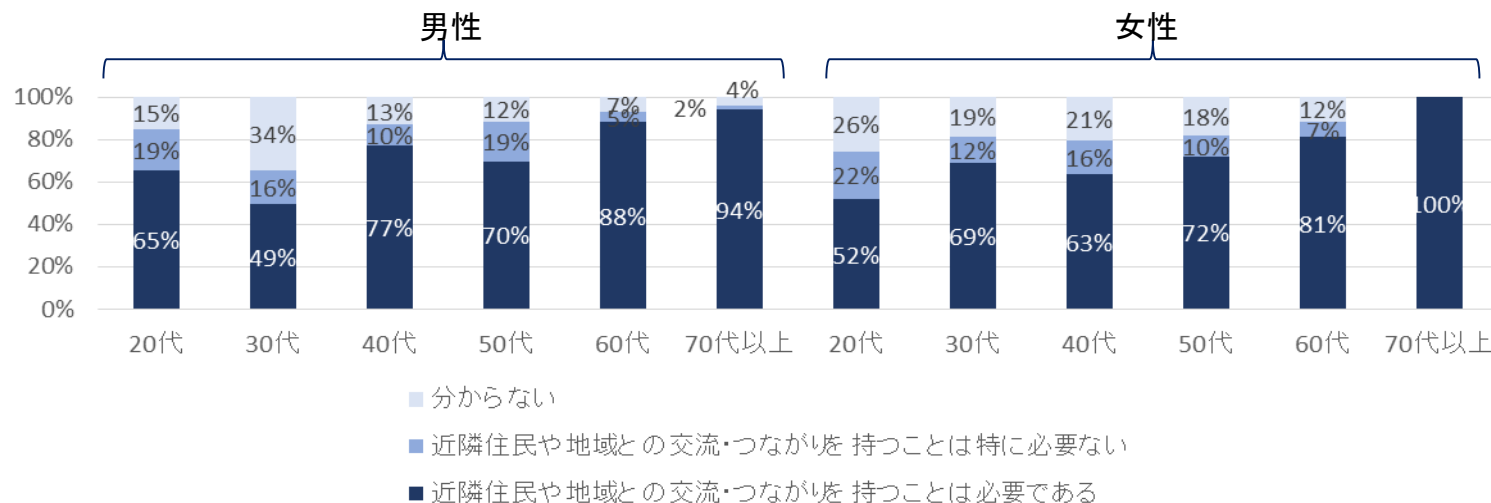
近隣住民や地域との交流・つながりを持つための活動への参加



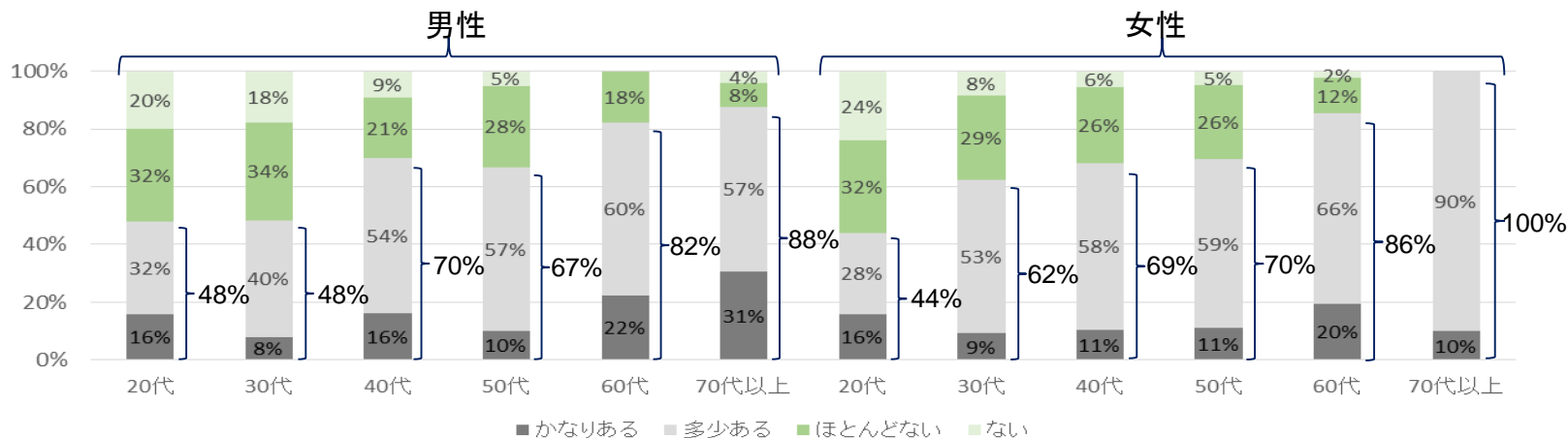
注: 近隣住民や地域との交流・つながりは、主に地域環境活動(ゴミ拾い・草とりなど)、町内のイベント活動(お祭り、BBQ大会、コンサートなど)、学校のイベント活動(運動会、球技大会、遠足など)を指す。  
 出典: 国土交通行政モニターアンケートより住宅局が作成

- 年齢が高くなるにつれて、近隣住民や地域との交流・つながりを持つことが必要であると考える人の割合と実際に活動に参加している人の割合が高くなる。
- 20歳代・30歳代の男性と20歳代の女性においては、近隣住民や地域との交流・つながりを持つための活動へ参加している人の割合が、他の世代に比べ低い。
- 特に、20歳代の男性においては、近隣住民や地域との交流・つながりを持つことが必要であると考える割合と実際に活動に参加している割合に乖離がある。

近隣住民や地域との交流・つながりに対する考え



近隣住民や地域との交流・つながりを持つための活動への参加



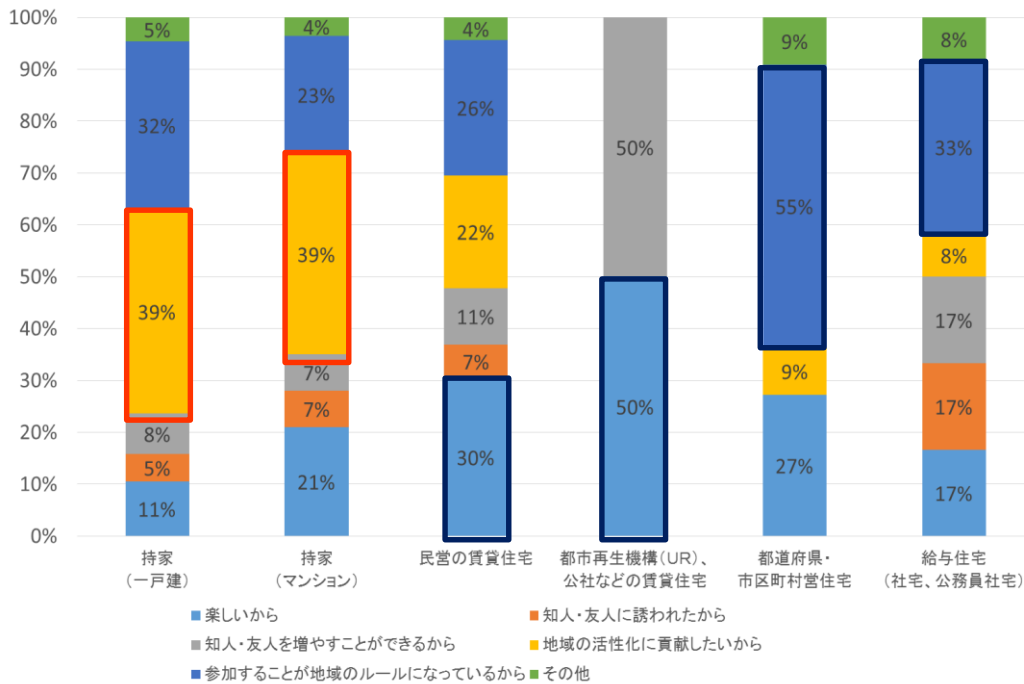
注：近隣住民や地域との交流・つながりは、主に地域環境活動(ゴミ拾い・草とりなど)、町内のイベント活動(お祭り、BBQ大会、コンサートなど)、学校のイベント活動(運動会、球技大会、遠足など)を指す。  
 出典：国土交通行政モニターアンケートより住宅局が作成

○住宅の種類によって、近隣住民や地域との交流・つながりを持つ活動に参加する理由が異なっている。

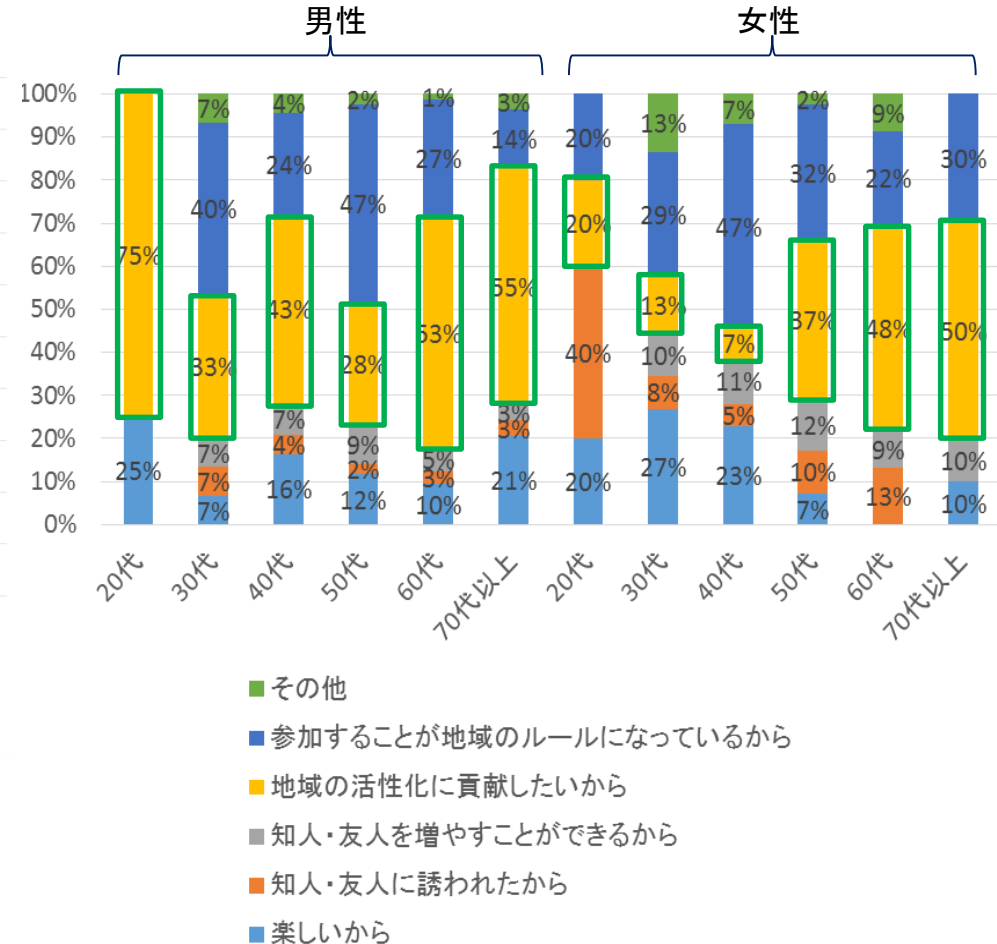
- － 持家は地域の活性化に貢献することが主な理由
- － 一方で、持家でない集合住宅の居住者は、活動を楽しむことや参加がルールになっていることが主な理由

○おおむね年齢が高くなるにつれ、地域の活性化に貢献したいという理由での参加が多くなっている。

## 住宅の種類別でみた参加理由

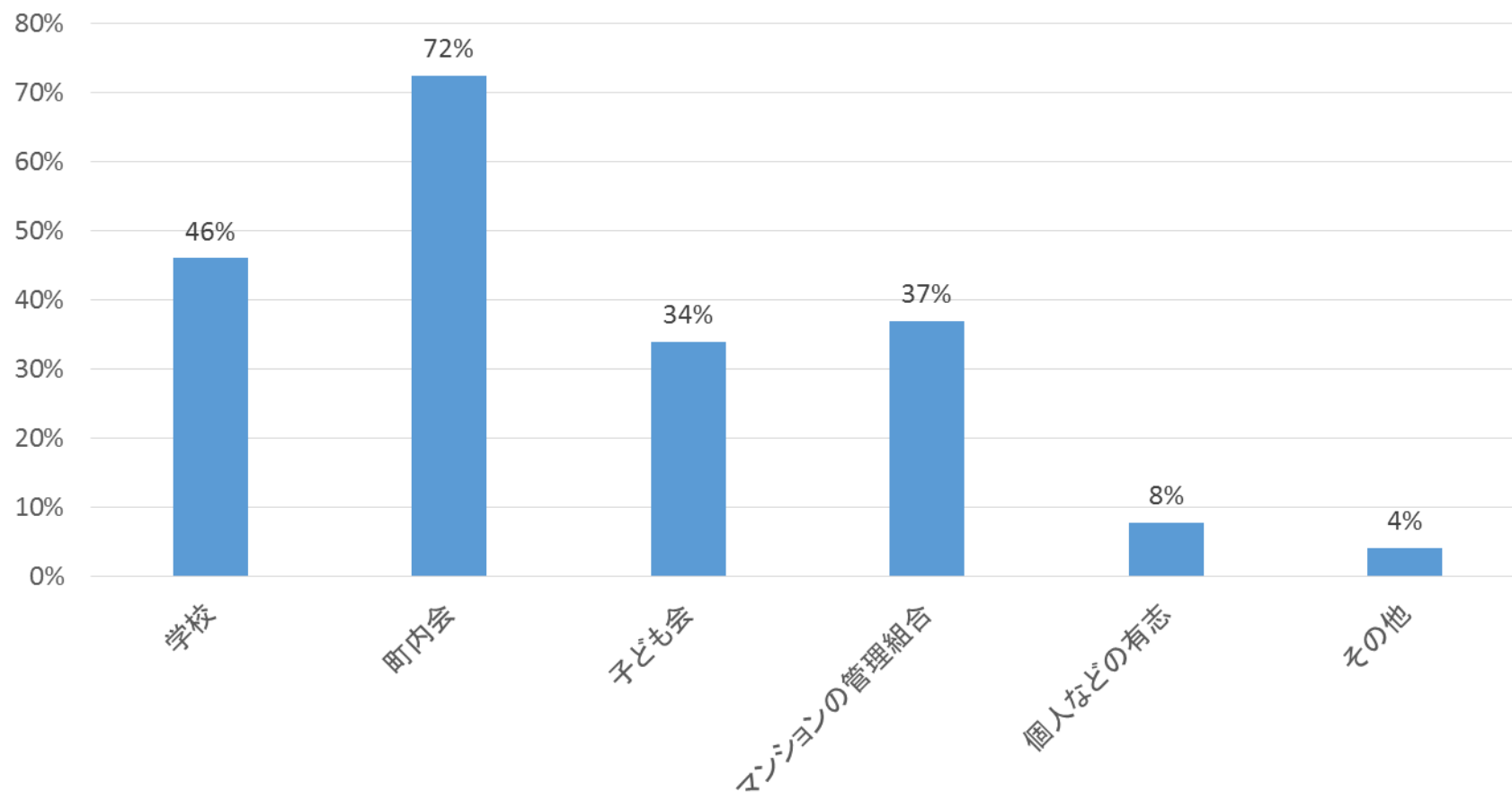


## 年齢別でみた参加理由



## 近隣住民や地域との交流・つながりを持つ活動の実施主体

○近隣住民や地域との交流・つながりに関する活動の実施主体は町内会が最も多く、学校、マンションの管理組合、子ども会が次いで多い。



注：主体者が学校、子ども会と回答した割合は、小学生の子どもがいる世帯を対象にした割合。マンションの管理組合と回答した割合は、マンションに居住する世帯を対象にした割合。



## 5. 高齢期の住まい方・暮らし方に関するニーズ

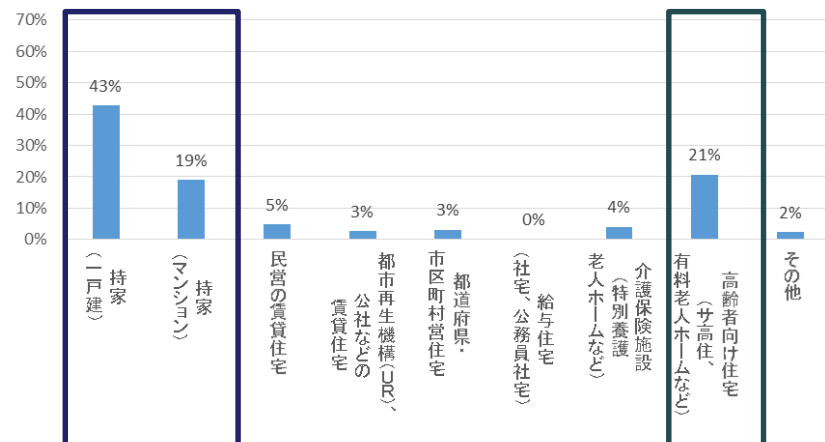
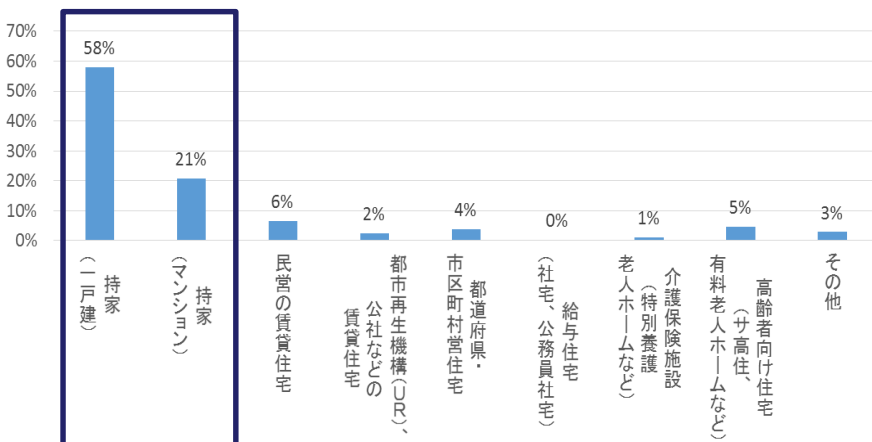
# 前期高齢者・後期高齢者になったときに住みたい住宅と理想の住まい方

○前期高齢者(60~74歳)になったときに住みたい住宅は、約80%が持家(一戸建・マンション)。後期高齢者(75歳以降)になったとき、持家で過ごしたいというニーズは高いが、高齢者向け住宅のニーズも高くなる。  
 ○高齢期において、理想の住まい方としては、買い物施設、医療・福祉・介護施設へのアクセスの良さをあげる人が多い。

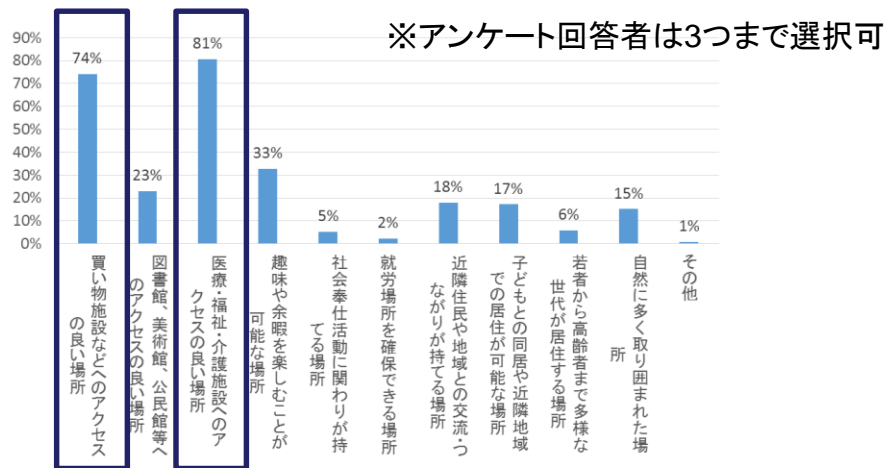
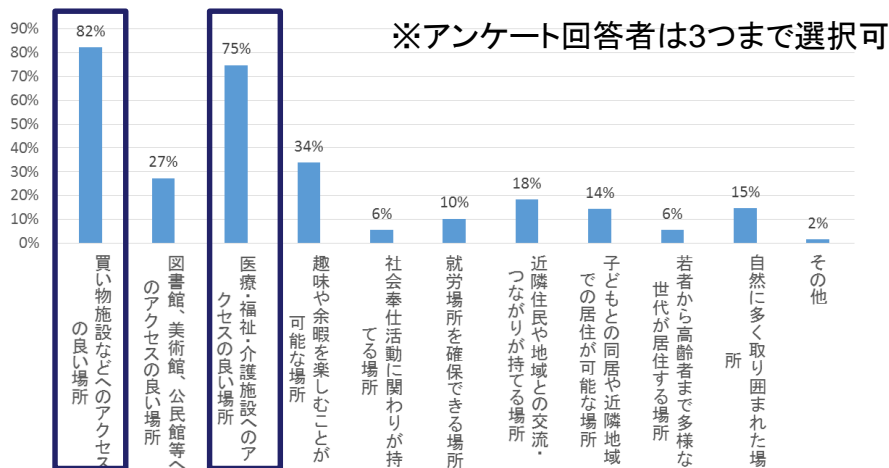
## 前期高齢者(60~74歳)になったときに住みたい住宅と理想の住まい方

## 後期高齢者(75歳以降)になったときに住みたい住宅と理想の住まい方

住みたい住宅



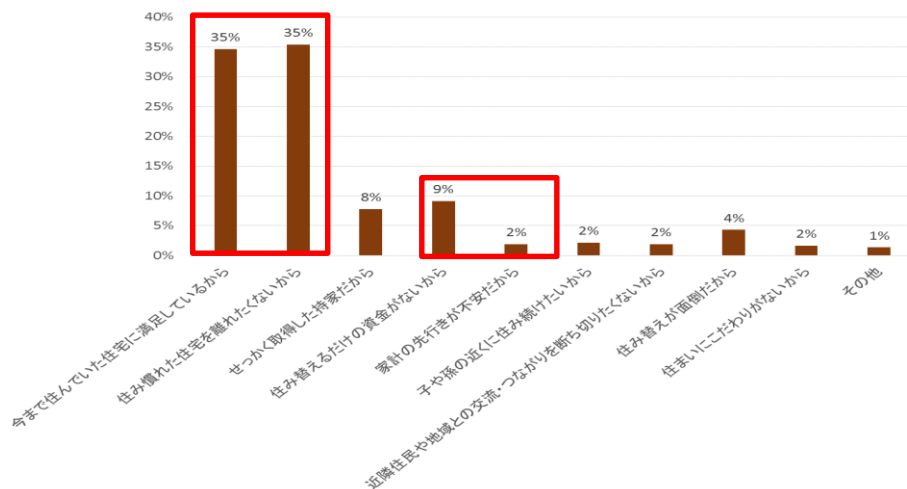
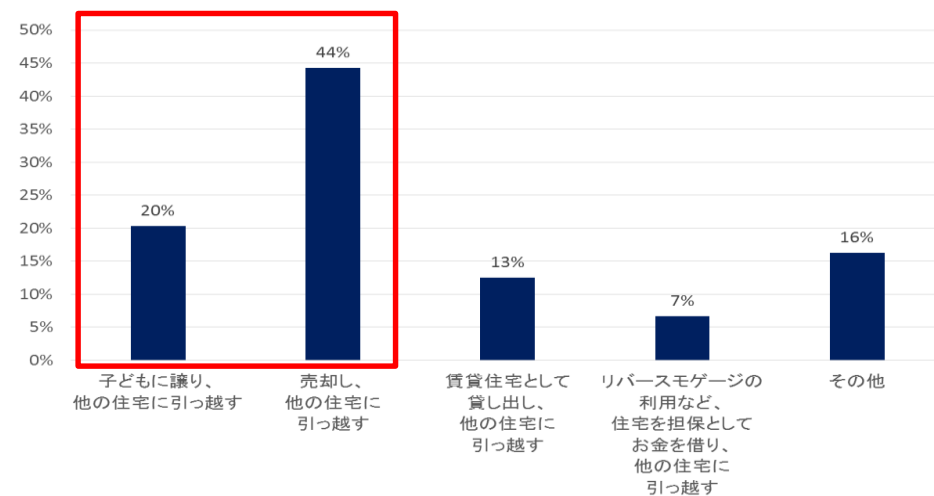
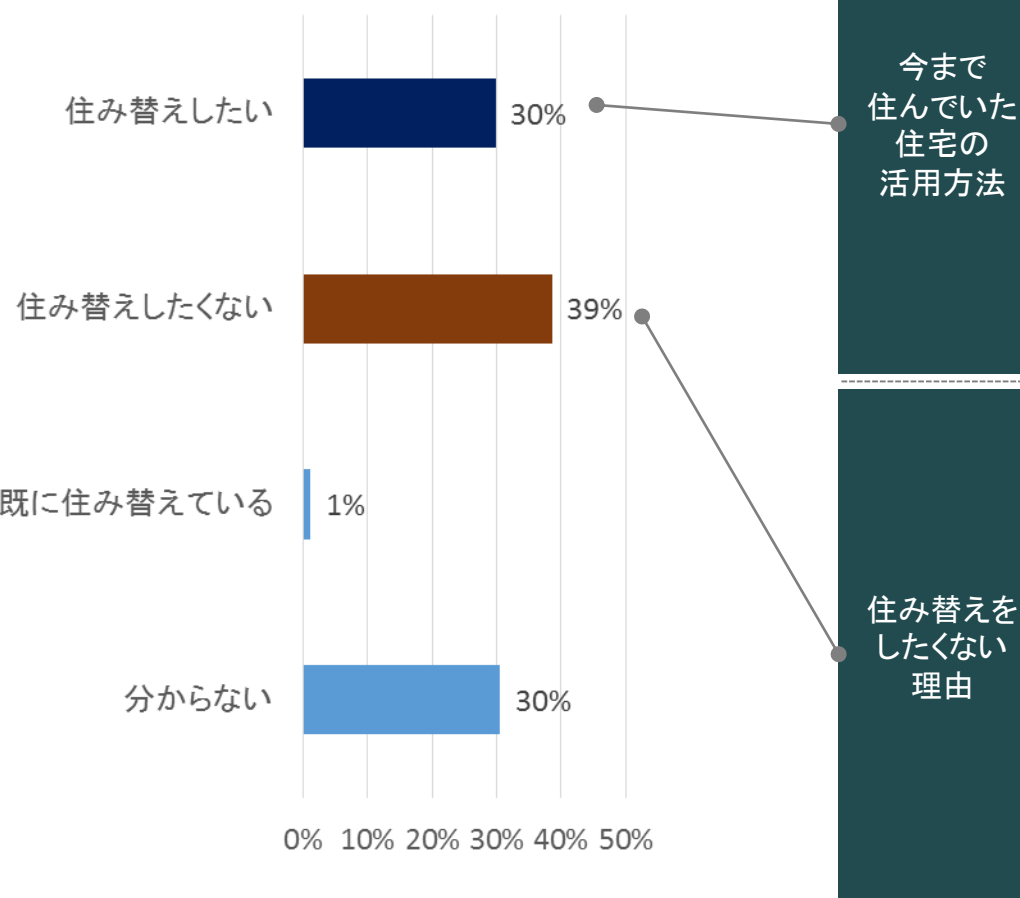
理想の住まい方



# 高齢期を迎えたときの住み替え意向

- 高齢期を迎えたとき、今まで住んでいた住宅から住み替えたい人は約30%、住み替えしたくない人は約40%。
- 住み替えたい人のうち、今までの住まいを売却又は子どもへ譲り、他の住宅へ引っ越すことを考えている人が約60%。
- 住み替えしたくない人のうち、今まで住んでいた住宅が満足であることや住み慣れた住宅を離れたくないためと考えている人が約70%。一方で、資金面の不安があるため、住み替えをしたくない人が約10%いる。

## 高齢期を迎えたときに、今まで住んでいた住宅から住み替えたいか



# 介護が必要になった時に過ごしたい場所

○介護が必要になった時に過ごしたい場所は、自宅・子や孫の家と高齢者向け住宅や介護保険施設で半々で分かれている。

